

山梨県立大学地域研究交流センター

2012

年度研究報告書

# 年 報

## 目 次

地域研究交流センター長挨拶 「大学の地域貢献は、ステップアップ」	1
I. 交流・支援部門	2
1. 講師・委員等の応嘱	3
2. 学外からの相談等への対応	3
3. 高校大学連携講座の実施	5
4. 教員の地域貢献活動への支援	5
5. 学生による地域貢献活動への支援	6
6. 大学周辺自治会との連携	7
7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力	8
8. 「池田地区健康まつり」への参加・協力	10
9. 看護・福祉専門職支援	11
II. 情報発信部門	12
1. 年報の発行	13
2. ニュースレターの発行	13
3. ウェブサイトでの情報発信	14
III. 生涯学習部門	15
1. 地域研究交流センター主催講座	16
（1）山梨県立大学春季総合講座～山梨県立大学3学部共催シンポジウム～	16
（2）観光講座	18
2. 県民コミュニティーカレッジ講座	19
（1）広域ベース講座（3回）	19
（2）地域ベース講座（4回）「人と人とのつながりを考える」	20
3. 地域連携講座	22
（1）日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」	22
（2）甲府市幼児教育センター月齢別講座	23
（3）子育て食育講座	26
（4）子育て支援リーダー養成講座	27
4. 学部共催講座	29
（1）人間福祉学部フォーラム（人間福祉学部）	29
（2）子育て支援フォーラム（人間福祉学部）	29
（3）保育リカレント講座（人間福祉学部）	30
（4）健康講座（看護学部）	31

IV. 地域研究部門	32
1. 研究の概要	33
2. プロジェクト研究	34
(1) 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について	34
(2) 多文化共生推進プロジェクト	
「保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて」	34
(3) 青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究 4	35
(4) 山梨県内在住外国人児童生徒の健全な育成に向けて	36
(5) 高齢者への見守りと地域連携の総合的研究	37
(6) 山梨県における農家民泊・体験学習への地域取組についての研究	37
3. 共同研究	38
(1) 山梨県のコミュニティビジネスのあり方に関する研究Ⅱ	38
(2) 在宅ケアにおける専門職連携実践[IPW]推進に必要な実践能力に関する研究	39
(3) 山梨県内の小学校英語教育における指導者の養成と研修に関する研究	40
4. 研究報告会	41
V. 事務局	42
1. 運営委員会記録	42
2. 組織図・委員名簿	44
3. 地域研究交流センター委員一覧	45
資料	
1. 年間の時系列記録	46
2. フライヤー等	52

## 「大学の地域貢献は、ステップアップ」

地域研究交流センター長 前澤哲爾

地域研究交流センターは、2005年開学と同時に全教員が参加する組織として設置され、「地域と向き合い、地域に開かれた大学」を具現化すべく、多くの地域貢献活動を推進してきました。2010年に公立大学法人化を果たし、自主的運営のメリットを生かして、地域との関係をより深くする活動を行ってきたつもりです。活動のすべては、この年報で報告されていますが、今年度の特長的なものをいくつかご紹介いたします。

### <地域研究の推進と地域への還元>

毎年、センターが「プロジェクト研究」と「共同研究」を学内募集しています。本年度は、プロジェクト研究6件と共同研究3件を採択し、実施しました。3月26日には、研究報告会を開催し、その成果を発表いたしました。

本年度、実施要項の見直しを行い、目的を達成するための運営方法の改善と、研究の質の向上を目指した「検証委員会」の設置を決めました。来年度から実施いたします。

### <「授業開放講座」の通年実施>

昨年度後期から開始した「授業開放講座」は、本年度前期・後期とも開講しました。科目数は、前期12科目開講、8名受講、後期33科目開講、2名受講でした。通年で開催でき、科目数も増えましたが、受講者数は減少しています。来年度は、受講者増加に向けた対策を行っていく必要があります。

### <新たな「観光講座」の実施>

24年度4月より、山梨県環境科学研究所研究員だった興水達司氏を特任教授として迎え、「富士山 世界遺産登録へ」と題した6回連続講座を開催し、550の方が受講しました。貴重な資料を集めた報告書も完成しました。

### <今後の課題>

平成25年度、文部科学省は大学COC事業（Center of Community /地「知」の拠点整備事業）を実施しますが、この事業は大学全体で地域に取り組むことを推進するものです。これは、まさに地域研究交流センターの目標に合致しており、より組織的にダイナミックに活動を行っていく契機となります。地域や組織との強力な連携を図り、地域に役立つ事業を展開していく所存でありますので、益々のご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後に、ご協力いただいたすべての方々に感謝すると共に、今後とも地域研究交流センターへのご支援を切にお願いしたいと思います。

（文責：前澤哲爾）

# 交流・支援部門

---

## 1. 部門事業の概要

### (1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

### (2) 学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

### (3) 高校大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している城西高校との高大連携講座を継続実施した。

### (4) 教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援メニューを企画・実施した。

### (5) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、2 件のプロジェクトを認定・支援したほか、「学生活動支援室」の活動として、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

### (6) 大学周辺自治会との連携

2010 年度から開始し、3 年目になる大学周辺自治会との連携活動を継続して実施した。大学周辺自治会との情報交換会から、大学の研究力を活用した地域の行事へ学生や教員が参加・協力することへと発展している。

### (7) 池田地区総合防災訓練への参加・協力

地域自治会との情報交換を契機に依頼された事業として、池田地区総合防災において、看護学部の教員および学生が、救急救命・応急処置等についての講習・指導を行った。

### (8) 「池田地区健康まつり」への参加・協力

池田地区連合会からの依頼を受け、看護学部の教員と学生が 3 年連続で、「池田地区健康まつり」に参加・協力した。

### (9) 看護・福祉専門職支援

大学祭における福祉専門職交流コーナーの設置

## 2. 部門事業の実績と課題について

大学周辺自治会と、情報交換会、地域自治会への参加・協力などを継続している。本学の研究・教

育の実績を生かして、地域や専門機関などと、足元の地域から地道に日常的に交流・支援を広げていく方向性をさらに学内全体で共有・展開していく。

## 1. 講師・委員等の応嘱

(1) 本学教員は、学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成24年度の応嘱状況を下の表に示す。これによれば、全学でのべ485件の応嘱があり、内訳は、講義・講演が262件、委員等が216件、その他が7件であった。学部別には、国際政策学部が39件、人間福祉学部が127件、看護学部が305件、職員等が14件であった。

なお、本報告における数値は平成24年2月17日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が存在すると思われる。

表1 平成24年度の講師・委員等応嘱状況

学部名	依頼内容名			総計
	講義・講演	委員等	その他	
国際政策	22	13	4	39
人間福祉	108	16	3	127
看護	127	178	0	305
職員等	5	9	0	14
総計	262	216	7	485

表2 平成24年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育所	0	1	0	0	1
小中学校	0	3	7	0	10
高等学校	4	1	8	0	13
専門学校	0	3	5	0	8
大学・短期大学	11	15	17	1	44
県関係機関	1	13	60	0	74
市区町村	0	34	23	0	57
各種団体	6	25	21	2	54
医療機関・福祉機関等	0	4	34	0	38
省庁等	0	0	0	2	2
その他	0	9	0	0	9
総計	22	108	175	5	310

表3 平成24年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	0	2	0	0	2
大学・短期大学	0	0	0	0	0
県関係機関	8	4	102	3	117
市区町村	3	5	6	0	14
各種団体	1	2	14	2	19
医療機関・福祉機関等	0	0	8	0	8
省庁等	1	1	0	3	5
その他	0	2	0	1	3
総計	13	16	130	9	168

表4 平成24年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校	0	0	0	0	0
県関係機関	3	0	0	0	3
市区町村	0	0	0	0	0
各種団体	1	0	0	0	1
医療機関・福祉機関等	0	1	0	0	1
その他	0	2	0	0	2
総計	4	3	0	0	7

(文責：川池智子)

## 2. 学外からの相談等への対応

地域研究交流センターは、学外と大学を結ぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応している。本年度も各種活動への協力名義提供、施設提供を行った。

(文責：川池智子)

## 3. 高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として、城西高校からの依頼を受け、平成18年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を本年度も継続して実施した。看護学部8名、人間福祉学部7名、計15名の教員の協力があった。教員名と

テーマは以下のとおりである。

表5 平成24年度「家庭看護・福祉」年間計画表（県立大学連携授業）

火曜日午後(13:45～14:35 14:40～15:30)

優先順位	月日	担当先生	講義テーマ
	4月24日	小山 尚美	高齢者の言動を科学的に理解しよう
	5月15日	西沢 三代子	患者さんから学ぶ看護～看護師に育っていくこと～
	5月22日		
	5月29日	吉澤 千登勢	いのちと倫理
	6月12日	平田 良江	新生児の観察ポイントとケア
	7月3日	坂本 玲子	メンタルヘルスと思春期脳
	8月28日	大久保 ひろ美	社会の中で生きる子どもの成長・発達する力
	9月4日	清水 恵子	高校生にできる自殺予防～身近で大切な人のいのちを守るために～
	9月11日	山北 満哉	テーマは現在検討中
	9月18日	下村 幸仁	子どもの貧困と社会保障
	10月2日	山中 達也	人を援助することの意味を考えてみよう
	10月9日	伊藤 健次	動作を介助するってどういうことだろう？
	10月16日		
	10月23日		
	10月30日	平尾 百合子	暮らしに役立つ感染予防の知識
	11月13日	池田 政子	幼い子どもたちが考えること:子どもの言葉を味わう
	12月4日	柳田 正明	人の行動の理解と方法
	12月11日	堀井 啓幸	「子どもの立場に立つ」ことを考える ー「立つな話すな整えよ」の教育活動からー
	12月18日		
	1月15日		
	1月22日		

(文責:川池智子)

#### 4. 教員の地域貢献活動への支援

##### (1) 教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的におこなう地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

##### A；センター主催の「地域交流・貢献活動」としての採択・実施

本学教員が主体的に企画・実施する県内特定地域での交流事業を対象とする。

内容に応じて、旅費、消耗品費などを支援する。

##### B；センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報など、可能な範囲で支援する。



### C ; センター「後援」等の名義使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。

教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意思表示をするにふさわしいものを対象とする。

### D ; 学生ボランティアの募集協力

「学生活動支援室」を H19 年度に開設し、学生による地域貢献活動の推進を行っている。この「支援室」を通じ、本学での学生ボランティア参加者募集等に協力することができる。

### E ; その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的なご要望などがあれば相談を受け付ける。

(文責:川池智子)

## 5. 学生による地域貢献活動への支援

### (1) 「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度 実施要項」を平成 20 年 6 月に定めた。これは、本学の学生又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイト公表するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要項に基づき、平成 24 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

#### (a) 教職員からの推薦

実施要項では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 24 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、2 件のプロジェクトが推薦された。

#### (b) 選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考をおこなった。選考委員会のメンバーは、小田切理事、鷹野理事、前澤教授、小林教授、大塚准教授、川池准教授、箕浦准教授の 7 名であった。平成 25 年 1 月 23 日に選考委員会が開かれ、協議の結果、2 件のプロジェクトの認定が決定された。

#### (c) 認定

認定式を平成 25 年 1 月 30 日 12:20~12:50 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室にて開催した。

表 6 平成 24 年度 学生優秀地域プロジェクト 認定一覧

番号	プロジェクト名	実施主体名
1	外国籍住民のためのボランティア保健活動	あまにゃん
2	「ふらっと案内」を通じた地域観光情報発信事業	山梨観光推進学生フォーラム

## (2)「学生活動支援室」の活動

平成19年度より設置している「学生活動支援室」により、学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信をおこなった。

(文責：箕浦一哉)

## 6. 大学周辺自治会との連携

2010年度から開始し、3年目になる大学周辺自治会との連携活事業を継続して実施した。大学周辺自治会との情報交換会から、大学の研究力を活用した、地域の行事へ、学生や教員が参加・協力へと発展している。

平成24年度 地域自治会との懇談会の内容は下記のとおりである。

- ・日時：平成24年7月9日（月）15時00分～16時00分
- ・場所：飯田キャンパス中会議室
- ・出席者：宮下飯田鶴巻台西自治会長、坂本荒川自治会長、長田長松寺北部自治会長、保坂長南自治会長、伊藤学長、鷹野事務局長、波木井理事、川池交流支援部門長、吉田委員、渡邊委員、小川池田事務室長、牧野総務課リーダー、矢ノ下学務課職員

### 1. 地元自治会の活動について

#### (1)池田地区連合自治会（長松寺南部自治会）

・防災訓練を8月26日に予定しており、看護学部の学生と教員に救護訓練について協力を得る予定になっている。

・地域自治会のほうからは、県立大を避難所として利用させてもらえないかという要望が出されたが、大学側からは、県立大学は災害時の一時的な集合場所としての避難場所には指定されているが、その後の一定期間使用するための避難所には指定されていないという説明がなされた。

また、池田地区では甲府城西高校、甲府西高校、池田小学校、甲府市西部市民センターが避難所になっているが、県立大の位置づけも含めて甲府市の防災対策部門と話をしていく。

- ・例年実施している文化祭と3月第一日曜日に開催する健康祭りへの参加をお願いしたい。

#### (2)長松寺北部自治会

- ・池田地区連合会以外の行事は特に予定していない。

#### (3)荒川自治会

- ・防災訓練を実施する際に、池田地区自治会の集合場所として池田キャンパスを利用を希望する。

#### (4)飯田鶴巻台西自治会

- ・11月25日に文化祭を予定している。これに是非多くの方が見学して欲しい。
- ・8月に納涼会を実施するが、学生サークルの参加があればありがたい。
- ・6月に学生サークル（MOTTAINAI）が窓口となって地域の人と昼食会（学食で一緒に食べよう会）を開いた。これは、当該地区の自治会長さんに依頼し、役員会に川池が学生を連れて訪問し、PRして実現した。組長さんの多くが高齢期の方で、学生との交流を歓迎してくださった。これからも学生を媒介として、足元の地域との連携、地域貢献の中で地域の人も喜んでいただき、学生も学ぶことができる活動が広がって大学教育の向上につながることを期待している。

## (5) 全体

・池田地区でも夏祭りを実施するが、これに学生の方が気軽に参加してもらえるといい。大学側からは、ポスター等を学内に掲示することはできる旨を伝えた。

## 2. 地域研究交流センターの本年度の地域貢献活動について

大学側からは、観光講座や授業開放講座、県民コミュニティカレッジ実施の予告がされ、今後、地域自治会側にチラシ等を配布する旨、伝えられた。

## 3. その他

・総合防災訓練の際にAEDを使用したいとの希望があったが、予算の関係で身近なもので救護訓練を実施することになった。

・大規模災害時における本学の役割・機能に関する課題と対策をテーマの学長プロジェクトへの協力が依頼された。

・また、2012大学案内、地域研究交流センター広報誌ニューズレター第13号、大学広報誌スフルVol.2が配布された。

(文責：川池智子)

## 7 池田地区総合防災訓練への参加・協力

池田地区自治会連合会より、山梨県立大学地域交流センターをとおして協力の依頼があった。依頼を受け、担当者が池田地区自治会連合会で行われた防災訓練の企画会議に参加し、綿密な打ち合わせを行った。また、地域住民用に「おぼえておこう 災害時の応急処置」という自作の資料を用意し、当日は看護学部の教員と学生が参加した。

日時：平成24年8月26日（日）9:00～12:00

場所：池田小学校・西部市民センター・甲府西高等学校・甲府城西高等学校

協力者：教員（11名）佐藤悦子・小林たつ子・流石ゆり子・清水恵子・村松照美・泉宗美恵・

小山尚美・井川由貴・森田祐代・萩原理恵子・渡邊裕子

学生（5名）天野真衣・小林咲菜・土屋理加・野澤絵梨・八代佳奈枝（4年生）

内容：救護訓練

・災害時救護所で活用できる救護（看護）の知識と技術

池田地区の住民624名が参加し、池田地区の避難所として指定されている4ヶ所で、住民ひとり一人が災害時に落ち着いて行動できるように、実際の避難を想定した大規模な防災訓練が実施された。本学の教員および学生は、4ヶ所の避難所に分かれて、身近にあるものを利用して住民ができる応急処置（骨折時の固定・気道確保・止血法等）について、参加者の協力を得ながら実践指導を行った。住民は真剣に参加し、熱心な質問したり実技を行ったりしていた。「普段の訓練では体験できない内容が盛り込まれていて大変参考になった」と多くの感謝の言葉をいただいた。

救護訓練の指導という立場での参加であったが、学生も教員も地域の住民としての自分の役割を考え

ることができ、同時に多くの大学周辺自治会住民との交流が持てる貴重な機会であった。

なお、参考のため、防災訓練実施前に、各種団体の責任者が参加して行われた、「防災訓練準備会」で、本学との関連で検討課題となった事項を以下に記す。

- ・ 日時:平成 24 年 6 月 15 日 (金) 19 時~20 時 30 分 場所:甲府市西部市民センター  
山梨県立大学からの出席:小林たつ子教授・牧野智リーダー・渡邊裕子

### 1. 山梨県立大学への協力要請内容

#### 1) 救急救命・応急処置等についての講習・指導（講師として）

4ヶ所の避難所単位で、看護学部の教員および学生による指導の依頼があった。指導内容は昨年度の訓練を踏まえ、今後の各避難所単位の会議時に、住民の要望を聞きながら詳細検討していく予定。大学としては4ヶ所で対応できるよう、体制を整えられるよう準備していくと回答した。

#### 2) 学生および教職員の訓練への参加（住民として）

大学周辺（池田地区）に在住している学生も多い。災害時に備えて一住民としてひとりでも多くの人に、訓練に参加するよう呼びかけをしてほしい。

### 2. 全体の質疑応答の中で本学に関連する内容

#### 1) 災害弱者への声かけ・誘導をどうするのか

要支援者名簿・ふれあい台帳等を利用し、各組単位で安否確認・誘導の体制を整えていく方向で検討し、8/26には訓練時の中に盛り込むように考えていくことが確認されていた。

#### 2) 池田キャンパスを指定避難所とはできないのか

「池田キャンパスは荒川自治会の一次避難所となっているが、そこから指定避難所（池田小学校）までは遠く、災害弱者には困難が多いので、池田キャンパスを指定避難所にできるような検討をしてほしい」という要望があった。甲府市防災課の代表者の回答では、県立大学とはすでに交渉に入っている旨の回答がなされていた。

#### 3) 大学の開講時間に災害が発生した場合、学生と住民の住み分けをどうするのか

指定避難所となっている各学校（甲府城西高校・甲府西高校・池田小学校）では、日中の開校時に災害が起こった場合、地域住民は体育館、生徒は教室という住み分けの詳細ができていくという情報が提供された。本学は一時避難所になっているので、災害時に備えて詳細検討が必要であるため、今後の関係会議で報告・提案していくことを出席した3名で確認した。

### 3. 今後の予定

#### 1) 救急救命・応急処置等についての講習・指導について

各避難所単位で開催される詳細検討の会議に、交流支援部門の担当が参加し、講習の詳細を明確にしていくとともに、「救急救命・応急処置」の講習に参加・協力してくれる教員と学生ボランティアを募集していく。

#### 2) 学生および教職員の訓練への参加（住民として）について

学部長・事務室と相談しながら、できるだけ早い時期から案内をしていく。

以上

(文責:渡邊裕子)

## 8 「池田地区健康まつり」への参加・協力

2013年3月3日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、看護学部の教員と学生が参加した。池田地区連合会からの依頼を受け、3年連続での参加・協力となった。昨年度好評であった、血圧測定・酸素飽和度測定・体組成測定・Functional Reach Test（姿勢反射機能と柔軟性の評価）を企画し、当日は教員指導の元に学生が測定を行った。測定した結果を渡しながらかつ参加した地域住民の健康に関する相談に応じたり、自作のパンフレットを用いて転倒予防体操や生活習慣病の予防について指導を行ったりしながら交流を深めた。来場者は60名以上で、ほとんどが高齢者であった。

「地元にある大学の看護学部の学生が、地域の活動に参加してくれることがうれしい」や「若い学生と話ができてパワーをもらった」などの言葉をいただき、好評であった。また学生は、「今まで学んだ知識や技術を実際の場で活かすことで、新たな課題を見出すことができた」と貴重な機会をいただいたことに感謝し、「昨年の授業（ヘルスアセスメント実践論）でご協力いただいた方にお目にかかることができ、またお話しすることができて楽しかった」と、地域の方々との交流を深めることに喜びを感じていた。

「池田地区健康まつり」への参加・協力は3年目となったが、「今後も是非継続して参加してほしい」という要望もいただき、看護学部が身近な存在として、地域の中に受け入れられている。本事業への参加は“健康”を考えながら、学生・教員と地域の方々が直接交流を深めることができる貴重な機会である。今後も継続して参加・協力しながら、さらに地域との交流・連携を深めていきたいと考える。参加教員と学生は、以下の12名である。

教員（5名）：佐藤悦子・遠藤みどり・森田祐代・山本奈央・渡邊裕子

学生（7名）：森本千寿・柳瀬奈々恵（3年生）

大高舞子・大谷友里絵・小田原和孝・小野衣美・菅野結花（2年生）



（文責 渡邊裕子）

## 9 看護・福祉専門職支援

昨年に引き続き、今年度も、飯田キャンパス大学祭（11月3、4日、11：00～15：00、飯田キャンパス カフェテリア1階）にて、福祉専門職交流コーナーを設置し、地域の福祉専門職（卒業生を含む）、地域住民の人たちとの交流を深め、好評を得た。今年度は、地域・研究交流部門は物品等の支援、

地域住民や同窓会との連携支援を中心とし、学生サークル「MOTTAINAI」のメンバーが企画・運営を主体的に担う形で実施した。以下、学生スタッフの感想の一部を掲載する。

- 来てくださった方々に自分から声をかけに行くのは非常に難しかった。障害を持った方、外国籍の方、地域の方など様々な方が一つのテーブルで語り合っている姿は新鮮で、誰でも受け入れる姿勢が大切だと思った。
- 予想より来場者が多くてよかった。来て下さった同士の交流がもっと進むような仕組みを考えればよかった。
- 楽しかった。子供達が工作を喜んでくれて嬉しかった。たくさんの世代の人と交流ができてよい場所だと思った。
- 地域の方に向けた企画でもあったため、予定していた子供や高齢の方まで幅広い世代の人が来てくれてよかった。
- いろいろな方と交流できてよかった。子供達に工作を教えるのは、一つ一つ動作を見せ、確認することが大切だと思った。
- 外部の方と話す数少ない機会で、とても楽しめた。その人その人の考えや、世代の異なる人との会話は自分にはない視点が多く勉強になった。
- もう少し気軽な雰囲気であったら、さらに多くの方が来てくれたのではないかと思う。
- 来てくださった方と話し、交流することは新たな発見にも、友好の輪を広げることにもつながると感じた。
- 自分自身が楽しめ、いろいろな方とお話しでき笑顔も見ることができてよかった。
- 普段あまり話すことがない障害者の方や高齢者の方と話すことで、自分にはない考え方や感じ方を知ることができた。ニコニコと話してくださるので自分も自然と笑顔になり、話し終わった後には「お話できて楽しかった。」と言ってくださってとても嬉しかった。
- 小さい子や高齢の方まで、様々な年代の方と話すことができて楽しかった。
- 工作に小さい子が多く来てくれて嬉しかった。もう少し中高生にも来てほしかった。
- 障害者の方々と交流できたことも貴重だったが、高校生とも話げできたことがとても新鮮で、異なる世代と交流する機会の大切さを感じた。
- 学外の方（一般の方、障がいのある方、子供）などと一度に関わる機会はあまりないので新鮮だった。
- 障害を持つ方達と話していて、より暮らしやすい街にするため自らグループを立ち上げ活動している様子を聞いてとても刺激を受けた。また、子供や地域の方とも交流することができてよかった。

(文責：川池智子)

# 情報発信部門

---

## 1. 部門事業の概要

### (1) 年報の発行

『2011 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2012 年 6 月 30 日付けで発行した。

### (2) 地域研究交流センターニューズレターの発行

地域研究交流センターニューズレターは、大学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外に配布している。2012 年度は下記の通り発行した。

- ①第 16 号：2012 年 4 月 25 日発行
- ②第 17 号：2012 年 9 月 20 日発行
- ③第 18 号：2013 年 3 月 27 日発行

### (3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイト上において、センターの概要、地域支援、生涯学習の案内、地域研究、教育改善、刊行物等について情報発信した。

## 2. 部門事業の実績と課題について

ニューズレター、年報、ウェブサイトの媒体を用いて情報発信を進め、地域研究交流センターの事業活動についての内外への周知を行った。こうした情報発信は事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2012 年度は、前年度と同様の情報発信体制の継続的な運用を行った。ニューズレターおよび年報については、発行スケジュールの遅れはあったものの、安定的に情報発信をすることができている。ウェブサイトについては、イベント告知レベルにとどまっており、改善の余地がある状況である。さらに的確で効果のある情報発信のためには、センター全体のビジョンに基づいた戦略的な情報発信ができることが望ましい。

## 1. 年報の発行

『2011年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2012年6月30日付けで発行した。この年報は地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センター説明資料や自己点検評価等の資料として活用されている。2009年度までは年度末に年報を発行してきたが、2010年度からは次年度の5月に発行時期を変更した。2012年度も5月発行を目指したがやや遅れて6月の発行となった。

(文責：箕浦一哉)

## 2. ニュースレターの発行

地域研究交流センターニュースレターは、大学と地域を結ぶ機関紙であり、大学の教員や学生による地域貢献、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を県内に紹介するとともに、全国に向けて発信する役割を持つ。

2009年度までの5年間で10号のニュースレターを発行したことを節目として、2010年度発行分からデザインと内容を一新し、新たに「tobira」という誌名をつけた。また、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで、内容の充実を図ってきた。2010年度までは年2回発行であったが、2011年度より年3回発行として、よりきめ細かい情報発信をおこなうこととした。

2012年度は16～18号のニュースレターを発行した。発行部数は4,000部で、このうち2,955通を関係先575箇所へ発送している。内訳は、県関係(47箇所)、市町村(27箇所)、文化施設(55箇所)、県内大学(10箇所)、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育園等、236箇所)、企業(14箇所)、県内非営利活動法人(56箇所)、県内高校(54箇所)、その他(76箇所)である。各号の概要は以下の通りである。

### (1) ニュースレター 第16号の発行

2012年4月25日発行のニュースレター第16号は以下の内容とした。

- ・特集「座談会 卒業生が語る地域貢献と大学生活」：5学科の卒業生による学生時代の地域貢献活動をテーマとした座談会を掲載した。出席者は以下の5名であった。松本みゆきさん(総合政策学科2011年卒業)、笠井愛さん(国際コミュニケーション学科2011年卒業)、木下佳紀さん(福祉コミュニティ学科2009年卒業)、小尾沙矢香さん(人間形成学科2012年卒業)、三枝亨さん(看護学科2011年卒業)
- ・「地域とつながる」(県立大学の地域連携・地域貢献事業の紹介)：人間形成学科が主催する「子育て支援フォーラム」を紹介した。
- ・「VOICE」(学外者へのインタビューによる県立大学の取り組みの紹介)：「外国人母子健康支援プログラム」に関して、甲府共立病院小児科の永井敬二医師、アルプス学園の永井ミリアン校長へのインタビュー記事を掲載した。
- ・「私たちの一歩！」(学生による地域貢献活動の紹介)：「着地型観光情報発信プロジェクト」の活動を紹介した。
- ・5月以降の開催予定講座の告知を掲載した。



## (2) ニュースレター第 17 号の発行

2012 年 9 月 20 日発行のニュースレター第 17 号は以下の内容とした。

- ・特集「おじゃまします！山梨県立大学です。」第 4 回：(財) 山梨県国際交流協会を取り上げ、山田幸子事務局長、坂上敬子主事と吉田均准教授が語り合った内容を掲載した。
- ・「地域とつながる」：看護学部と人間福祉学部が共同で実施した専門職連携演習における道志村との連携プロジェクトを紹介した。
- ・「VOICE」：笛吹市社会福祉協議会会長・網倉義久さんへのインタビュー記事を掲載した。
- ・「私たちの一歩！」：「和太鼓部」の活動を紹介した。
- ・9 月以降に開催予定の講座・イベントの告知を掲載した。

## (3) ニュースレター第 18 号の発行

2013 年 3 月 27 日発行のニュースレター第 18 号は以下の内容とした。

- ・特集「企業の海外展開を支援する」：2012 年度に受託した産学官連携海外展開促進事業について波木井理事に取材した内容を掲載した。
- ・「地域とつながる」：観光講座「富士山 世界遺産登録へ」を紹介した。
- ・「VOICE」：ピアカウンセリングの集まりである「やまちゃんサロン」の参加者にインタビューした内容を掲載した。
- ・「私たちの一歩！」：2012 年 11 月に開催された「関東・東海 B-1 グランプリ」における県立大生の活動を紹介した。
- ・4 月以降の開催予定講座・イベントの告知を掲載した。

(文責：箕浦一哉)

## 3. ウェブサイトでの情報発信

山梨県立大学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、各種の情報発信をおこなっている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信を行っている。他に、センターの概要、ニュースレター等の刊行物、学生優秀地域プロジェクトの活動報告等を掲載している。

(文責：箕浦一哉)

# 生涯学習部門

## 1. 部門事業の概要

平成 24 年度は、以下の講座を実施した。

### (1) 地域研究交流センター主催講座

- ① 春季総合講座
- ② 観光講座（6 回）

### (2) 県民コミュニティーカレッジ

- ① 県民コミュニティーカレッジ広域ベース講座
- ② 県民コミュニティーカレッジ地域ベース講座（4 回）

### (3) 地域連携講座

- ① 日本語・日本文化講座（20 回）
- ② 幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部 18 回、看護学部 12 回）
- ③ 子育て食育講座
- ④ 子育て支援リーダー養成講座（6 回）

### (4) 学部共催講座

- ① 学部講演会（人間福祉学部）
- ② 子育て支援フォーラム（人間福祉学部）
- ③ 保育リカレント講座（人間福祉学部）
- ④ 健康講座（看護学部）

## 2. 部門事業の実績と課題について

今年度の「春季総合講座」は、今まで 3 回シリーズで行われていた形態を特別企画として 3 学部協同によるシンポジウム形式に変更して行った。地域住民と専門職の連携、介護予防、権利擁護など多様な高齢化に対する課題を横断的に議論し、山梨の将来に向けた提言を発信する機会としたが、この 3 学部合同開催は学部間の研究者交流をより促進させる契機になったのではないかと考えられる。

また「観光講座」は、地域研究交流センターの特任教授である輿水達司先生がコーディネーターとなり「富士山世界遺産登録へ」をテーマに全 6 回シリーズで行った。動員数の多さからも、地域のニーズにマッチした講座が開催できたことは大きな成果であったといえる。

県民コミュニティーカレッジについては、広域ベース講座では山梨県内の各大学と連携して本学から 3 名の先生方にご協力いただき、地域ベース講座においても「人と人とのつながりを考える」を統一テーマに、3 学部それぞれの専門性を活かし特色のある講座を開催することができた。その他、各学部においては地域連携講座や健康講座等の開催を通じて地域における本学の役割を見出していると考えられる。

生涯学習部門における今後の課題としては、授業開放講座の充実に加え、本学の受験者獲得のために高校生をターゲットとした講座等を検討していく必要があると考える。今後は、従来の各講座の継続的な評価を進めていながら、内容や周知方法の検討を続ける必要性が示唆された。

## 1. 【地域研究交流センター主催講座】

### 1. 春季総合講座特別企画 山梨県立大学3学部共催シンポジウム

#### 「あなたの老後どう支えますか？ー市民と専門職の地域連携を目指してー」

- (1) 趣旨：山梨県内の高齢者・一人暮らし世帯の増加と共に、認知症ケアや財産管理など様々な形での支援やネットワーク作りが地域において求められている。地域住民と専門職の連携、介護予防、権利擁護など多様な高齢化に対する課題を横断的に議論し、山梨の将来へ向けた提言を山梨県立大学の3学部から発信するためのシンポジウムを開催する。
- (2) 対象：一般県民、福祉・介護専門職・法律専門職・大学生
- (3) 日時：2012年6月9日（土曜）13：00～16：00
- (4) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス 講堂
- (5) 受講者数：59名

<b>◆第一部 個別報告</b>
報告1：「超高齢社会を生きるー認知症への対応」 （依田純子 山梨県立大学看護学部講師）
報告2：「高齢者の見守りと地域の課題」 （伊藤健次 山梨県立大学人間福祉学部講師）
報告3：「市民後見人の養成と課題」 （藤巻真里子 笛吹市社会福祉協議会 後見センターふえふき職員）
<b>◆第二部 パネル・ディスカッション</b> <b>テーマ「地域における高齢者の見守りを考える」</b>
（コーディネーター） 澁谷 彰久（山梨県立大学国際政策学部 教授） （パネリスト） 依田 純子（山梨県立大学看護学部 講師） 伊藤 健次（山梨県立大学人間福祉学部 講師） 萩原 学（笛吹市社会福祉協議会 後見センターふえふき） 小林 恵（リーガルサポート山梨 司法書士）

（文責：澁谷 彰久）

老後テーマに  
意見を交わす  
県立大飯田キャンパス  
山梨県立大は9日、甲府・  
同大飯田キャンパスで「あな  
たの老後、どう支えますか？  
」市民と専門職の地域連携を

「超高齢社会を生きる」認  
知症への対応」と題して報告  
した同大看護学部講師の依田

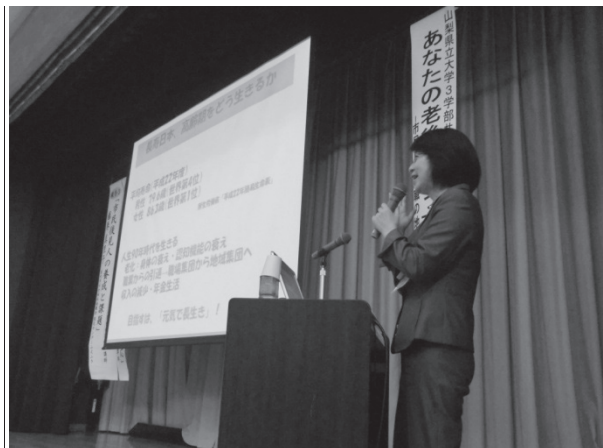
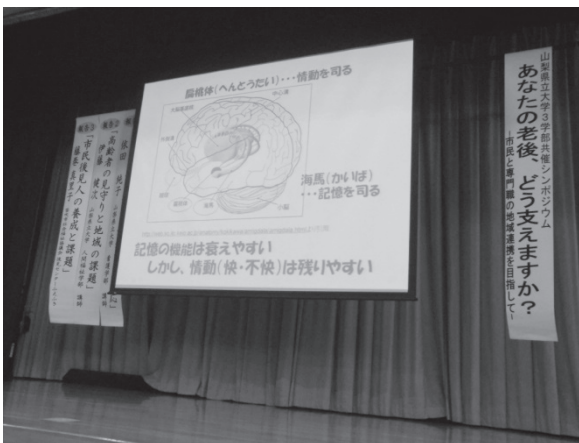


認知症を取り巻く現状などについて  
紹介した報告会  
「甲府・県立大飯田キャンパス

目指して」をテーマに報告  
会とパネルディスカッション  
を開いた。  
「超高齢社会を生きる」認  
知症への対応」と題して報告  
した同大看護学部講師の依田  
意見を交わした。

純子さんは「認知  
症は『わたくしこ  
と』として起らない  
と強調。「当事者  
は何も認識してい  
ない、と思われが  
ちだがそれは偏  
見。怒りや疑問、  
不安とともに生き  
ている」と呼び掛  
けた。  
パネルディスカ  
ッションは「地域における高  
齢者の見守りを考える」をテ  
ーマに開催。同大国際政策学  
部の渋谷彰久教授がコーディネ  
ーターを務め、専門家が

(6月10日山日新聞朝刊)



## 2. 観光講座「富士山世界遺産登録へ」

- (1) 趣旨：平成 25 年夏に、富士山が世界文化遺産に登録が確実になりそうな状況の中で、地元の県立大学として富士山の誇るべき自然や文化の学術的価値と保全・管理のための方策について、広く県民に周知を図るために講演会を企画した。
- (2) 対象：一般県民
- (3) 講師：五味文彦（放送大学教授）・森原明廣（山梨県学術文化財課）・新津健（山梨県埋蔵文化財センター元所長）・堀内真（山梨県立博物館）・荒牧重雄（山梨県環境科学研究所所長）・輿水達司（山梨県立大学特任教授）・杉本悠樹（富士河口湖町生涯学習課）・高橋晶子（山梨県郷土研究会）・高室有子（山梨県立文学館）・近藤暁子（山梨県立博物館）・高橋一孝（山梨県水産技術センター所長）・植月学（山梨県立博物館）・吉澤一家（山梨県衛生環境研究所）・井上洋一（富士吉田口旅館組合）
- (4) 日時：第 1 回 平成 24 年 7 月 1 日（午後 1 時半～午後 4 時半）  
第 2 回 平成 24 年 9 月 29 日（午後 1 時半～午後 4 時半）  
第 3 回 平成 24 年 10 月 6 日（午後 1 時半～午後 4 時半）  
第 4 回 平成 24 年 10 月 13 日（午後 1 時半～午後 4 時半）  
第 5 回 平成 24 年 10 月 20 日（午後 1 時半～午後 4 時半）  
第 6 回 平成 24 年 10 月 27 日（午後 1 時半～午後 4 時半）
- (5) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂
- (6) 実施状況：初回の 7 月 1 日は、講師の都合もあったが、富士山の山開きの日に当たる日曜日に講演会を設定し、その後は夏休み期間をはさみ、再開の 9 月 29 日の第二回目以降からは毎週土曜日の午後の時間帯で、10 月 27 日まで全 6 回を実施した。6 回の講演会には、延べで 554 名の参加を数え、平均で 92.3 名になった。これらの参加者の内訳として、初回の講演会には学内からの学生 35 名が含まれているが、2 回目以降は学内学生の参加は本分の授業・講義の関係もあり、ほとんどなく、多くは一般県民の参加であった。このように、特に動員を促すことなく、多くの参加者のあった背景には、富士山の世界文化遺産の正式登録が近いという时期的なことも手伝って、県民の多くの足を今回の講演会に運ばせたのかも知れない。しかし、この理由のみで今回の講演会への参加者が多かったことを説明するには、幾分短絡的であるような気がする。なお、各回の講演には要旨として講演内容に関する資料が講演者によって用意された。講演会を重ねる中で、これら要旨を一括取りまとめるよう参加者からの要望があった。これを受け、地域研究交流センターでは報告書として本年度中に完成する計画で作業を進め、平成 25 年 3 月に完成できた。今後は、富士山の文化遺産登録に関する基本的でかつ重要な情報が、報告書として講座に参加できなかった人のご要望にもお応えするかたちで、山梨県内の最寄りの図書館あるいは山梨県立大学ホームページなどで、ご覧いただけることになった。今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ、山梨県立大学に足を運んで頂いた経緯から、今後においてこの企画が県内観光推進の面からも何某かの新しい貢献になれば、と願って実施状況の報告とする。

（文責 輿水達司）

## 2. 【県民コミュニティーカレッジ】講座

### 1. 広域ベース講座

- (1) 趣旨：「県民コミュニティーカレッジ」は、2007 年度より、山梨県内の大学・短期大学と特定非営利活動法人大学コンソーシアムやまなしの共催による事業として実施されている。今年度の「広域ベース講座」では、山梨県内の大学（山梨県立大学・都留文科大学・山梨学院大学・山梨英和大学）が協働して、新設の山梨県立図書館にて開催した。「富士山の知られざる魅力」と「情報化社会の生活術」の 2 テーマのもと、本学からは 3 名の先生方に協力いただいたので報告する。
- (2) 対象：一般県民
- (3) 講師：伏見正江（看護学部看護学科教授）  
          興水達司（地域研究交流センター特任教授）  
          大西康雄（国際政策学部総合政策学科准教授）
- (4) 場所：山梨県立図書館
- (5) 実施状況：

伏見正江「女性の健康エンパワメント～豊かな富士山の森の文化を健康づくりに活かす～」

平成 24 年 12 月 18 日（火）18：30～20：00

八ヶ岳南麓の地では、「森」が持つグリーンケアの癒しの力と美しい富士山を眺望し、心とからだをリラックスできるプログラムを実践している。今年は富士山の女人禁制が解かれて 140 年。四季折々の美しい「夢の富士山」に笑みと生きる力を求める人びとの関心が高まっている。安産祈願で神社や湧水池の忍野八海を巡り、身を清める御師料理、富士山の持てるスピリチュアルケアの魅力をお話しいただいた。

興水達司「富士山・富士五湖の新しい地球観～富士山の火山としての特異性から探る～」

平成 25 年 1 月 8 日（火）18：30～20：00

富士山は、その美しさのみならず、火山としての形成過程から観ると、日本列島の多くの火山と比べ随分と特異な性格を備えている。この特異性に着目し、身近な話題として富士山の雪のルーツが基本的に太平洋気団に由来するのを手始めに、西湖に生息確認されたクニマスが、なぜ西湖の北岸付近に分布するかなど、富士山・富士五湖等につき、これまで進めてきた研究から明らかになった地球科学分野の成果を中心に紹介した。

大西康雄「しらべる ～情報の活用、収集など～」

平成 24 年 12 月 19 日（水）18：30～20：00

今日インターネットの Web 検索で広く使われている検索エンジンを中心に、その基本的な仕組

みや特性、そしてその検索方法や活用方法について解説した。また検索エンジンを利用する際に考えておかなければならない課題や、その限界についても述べ、検索エンジンを補完するような、情報検索サイトやツールの紹介、さらには私たちを取り巻く情報空間との付き合い方についても紹介した。

「富士山の知られざる魅力」と「情報化社会の生活術」の2テーマとも、地域の実情やニーズに見合ったものであったこと、さらに新設の山梨県立図書館での開催であったことも影響してか、全体を通して集客はとても良かった。また、広域ベース講座の内容を検討する段階で、何度も大学間で話し合いの場を持ったことで、講師の先生方をはじめ大学の壁を超えた交流が図れたのではないかと考えられる。

(文責：望月 宗一郎)

## 2. 地域ベース講座「人と人とのつながりを考える」

- (1) 趣旨：災害時の助け合いや地域の活性化などに共通するキーワードとして、「人と人とのつながり」は外すことのできない大切な要素である。地域に開かれた本大学の役割として、あらゆる角度から地域の方々と考える機会を持つことで、世代を超えた地域をつなぐのを醸成するための一助とする。
- (2) 対象：一般県民
- (3) 講師：堀井啓幸（人間福祉学部人間形成学科教授）  
長坂香織（看護学部看護学科准教授）  
玉井亮子（国際政策学部総合政策学科准教授）  
村松照美（看護学部看護学科教授）
- (4) 日時：第1回 平成24年12月2日（日）14：00～15：30  
第2回 平成24年12月8日（土）14：00～15：30  
第3回 平成24年12月15日（土）14：00～15：30  
第4回 平成24年12月22日（土）14：00～15：30
- (5) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス6階サテライト教室
- (6) 実施状況：

堀井啓幸「防災・コミュニティーの拠点としての学校」

文科省委託の「震災時における学校対応の在り方に関する調査研究」（平成23年度）の調査結果を踏まえ、災害時に避難場所となる学校のあり方を中心に、避難所運営、絆づくりに必要な日頃の心構えなどについてお話した。日頃の絆づくりについて、学校運営協議会の意義や今後の展望などの質問があった。

長坂香織「保健・医療活動をとおして外国籍の子どもたちを知る」

外国籍住民への保健・医療活動をとおして見えてきた、その子どもたちをめぐる現状について、

データと事例を用い説明をし、いくつかの事例についてはグループで話し合ってもらった。具体的には、外国籍住民（移民）の現在に至る社会的背景、多様な「外国につながる子どもたち」の存在、それらの子どもたちの教育の状況や言語習得の状況、ブラジル人学校の存在とその状況などについて広く知っていただけた。

玉井亮子「市民と行政をつなぐもの：地方自治の視点から」

「同じ制度を全国的に導入したにも関わらず、制度がうまく機能するケースと機能しないケースがあるのはなぜだろう」という疑問を、「市民的な政治文化の差」から説明したロバート・D・パトナムによる一連の「ソーシャル・キャピタル」の議論を紹介した。一方、市民と行政の関係性への疑念、政治や行政について市民が閉塞感を感じているからこそ、このような議論が注目されていることも示し、社会的なつながりの醸成を通じて、一人ひとりが社会に関心を持ち続けることが重要であることを述べた。

村松照美「豊かな生活を育むために ～人々の生き様から学ぶこと～」

すべての国民が健やかで活力ある社会を目指す第2次の『健康日本21』が策定され、社会・生活環境改善におけるソーシャル・キャピタルの重要性が指摘されている。改めて豊かな生活に向けて人々が地域で繋がることの意味を自己物語の形成という視点から追及した。さらに、相互の関わりによる自己の振り返り（リフレクション）、ロールモデルとの出会い、楽しい語りによる脳への効果を学び、普段づくりの地域の輪を形成する意義を伝えた。

地域ベース講座の受講者数は延べ32人と、ここ数年伸び悩んでいる状況である。参加者へのアンケートより、今年度初めて参加したと回答した者が12人（37.5%）であった。満足度については「満足」「どちらかと言えば満足」と回答した者が27人（84.3%）であったことから、講座の受講者からはある程度の関心と評価をいただけたものと考えられる。今後、地域の特徴を活かしたコミュニティーの構築に向け、人と人のつながりをどのように形成していけばよいか、さらなる継続学習の必要性が確認できた。

（文責：望月 宗一郎）





### 3. 【地域連携講座】

#### 1. 日本で生活する外国人のための「日本語・日本文化講座」

1. 目的：山梨県に在住する外国人住民を支援するために、日本語および日本文化を学ぶための講座を毎年開講している。今年度は、初めて日本語を学ぶ人々を受け入れるために、1クラス増設した（初級1）。

なお、この講座は、甲府市と山梨県立大学の共催講座であり、地域ボランティア団体ソリダリダーの協力のもとに実施している。

2. 対象：山梨県内在住外国人（成人）

3. 実施概要

(1) 日時：毎週日曜日 13:00～15:00

(2) 場所：山梨県立大学 A 館 6 階サテライト教室・研修室

(3) 開講クラス 初級1クラス（ひらがな・カタカナ学習を含む）

初級2クラス（漢字学習を含む）

中級クラス

日本文化・社会についての学習（もちつき体験等）

(4) 受講料：無料

(5) 期間 1期 5月20日～7月22日

2期 10月14日～1月27日

4. 実施状況

長期に渡る講座であり月によって人数の変動があるが、年間を通して多くの外国人受講者があった。学習者の国籍は多岐に渡り、甲府在住の多様な外国人住民の現状を反映したクラス構成となっていることも本講座の特徴である。

月別の人数と国籍の内訳は下表の通りである。

月	初級1クラス	初級2クラス	中級クラス
5月	23名（中国、台湾、韓国、カナダ、ペルー、アイルランド、タイ）	17名（中国、台湾、韓国、アメリカ、フィリピン、ブラジル、ペルー）	20名（中国、韓国、ペルー、ボリビア、アメリカ、タイ、ブラジル）
6月	71名（中国、韓国、台湾、タイ、カナダ、アイルランド、ペルー、インド）	30名（台湾、中国、韓国、ブラジル、ペルー、香港）	22名（中国、韓国、ペルー、ボリビア、アメリカ）
7月	48名（中国、台湾、インド、カナダ、タイ、ペルー、アイルランド）	25名（韓国、台湾、中国、ペルー）	7名（韓国、中国、ボリビア、アメリカ）
10月	24名（中国、台湾、韓国、タ	29名（台湾、タイ、中国、ペ	6名（ボリビア、韓国）

	イ、アメリカ)	ルー、アメリカ、インド、香港)	
11月	11名(中国、台湾、アメリカ)	21名(台湾、中国、香港、韓国、アメリカ、インド)	2名(ボリビア、韓国)
12月	14名(中国、台湾、アメリカ)	21名(台湾、中国、韓国、タイ、香港、インド、アメリカ)	4名(ボリビア、韓国)
1月	10名(中国、台湾、タイ)	12名(台湾、中国、インド、タイ、香港)	2名(韓国)

(文責：安藤淑子)

## 2. 甲府市幼児教育センター月齢別講座

### 1. 看護学部

(1) 実施状況：小児看護学領域では、3ヶ月～8ヶ月未満・8ヶ月～1歳3か月未満のお子さんのお母様方を対象とした「育児の気がかり講座」を担当させていただいております。平成24年度は全12回を4名の教員が担当しました。(表1参照)

この講座は、お母様方の育児に関するちょっとした疑問について、皆で楽しく共有しながら教員が相談に応じるといった内容になっています。どの家庭にも共通の悩みもあれば、「うちの子だけ？」とお子様ひとりひとりの個性によって異なる気がかりもあり、和気藹々と質問しやすい雰囲気づくりを大切にしながら講座を進めています。

母親が日々の育児の中で迷い悩むことは、周囲から見れば“たいしたことではない”と思われがちです。しかし、お母様にとっては切実な場合もあります。お母様方の育児での悩み事や不安が少しでも軽減され、楽しく育児に臨めることを願いながら、今後も取り組みたいと思っております。

(文責：茂手木明美)



表1 平成24年度 甲府市幼児教育センター 月齢別講座一覧

(看護学部担当「育児の気がり」講座)

3ヶ月～ 8ヶ月 未満児	中央部		北部	
	日程	講師	日程	講師
	第1期	6月21日 大久保ひろ美	6月28日	茂手木明美
	第2期	10月25日 大久保ひろ美	11月8日	茂手木明美
第3期	2月7日 大久保ひろ美	1月31日	茂手木明美	
8ヶ月～ 1歳3ヶ 月未満児	中央部		北部	
	日程	講師	日程	講師
	第1期	6月19日 井上みゆき	7月3日	田淵和子
	第2期	10月23日 井上みゆき	10月16日	田淵和子
第3期	2月5日 井上みゆき	1月29日	田淵和子	

## 2. 人間福祉学部

- (1) 実施状況：人間福祉学部では1歳3ヶ月～2歳児・2歳児コースを担当し、これまでにも恒例で開催させていただいた中央部幼児教育センター、北部幼児教育センターに加え、新たに本年度からは中道アネシス幼児教育センターでの開催が増え、計3か所、18回の講座を行いました。(表参照)

内容は、教員が講師を務める講座と、学生たちが参加する交流企画の大きく2つのタイプに分かれます。教員が講師を務める講座では、それぞれの専門性を活かし、研究等で得た知

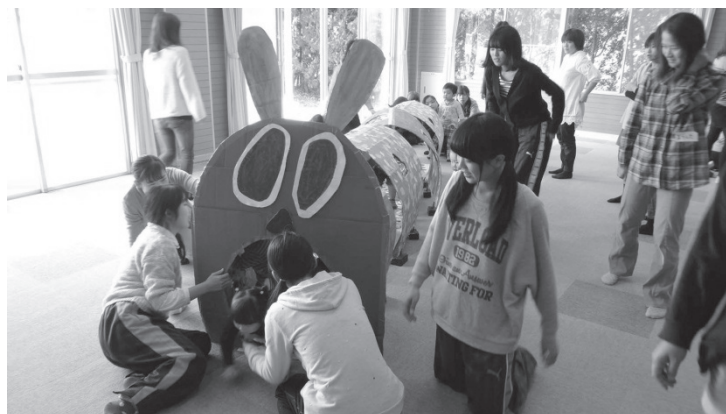
見をわかりやすく、親しみやすくお伝えするよう心がけています。様々な情報や体験の共有から、日常生活の中での楽しい子育てのヒントを見出しただけならば願っております。もうひとつの学生たちが参加する交流企画では、毎年、1年生は自作の遊具を持ち込み、初めての子育て支援活動に取り組みます。また2年生は劇発表を中心に、1時間の子育て支援活動を企画します。学生たちは試行錯誤を繰り返しながら事前準備をして当日に臨みますが、現場での子どもたちの反応は予想外なこともあり、そんな実際の子どもの様子から多くのことを学び、保育者になる責任ややりがいを感じているようです。

今後も子育て支援活動に対して教員も学生も積極的に関わり、少しでも地域の方々のお力になることができれば幸いです。

(文責：古屋祥子)

●1歳3ヵ月～2歳未満児 (金曜日 10:30～11:30)											
日 程		中央部 (金曜日)		日 程		北部 (金曜日)		日 程		中道アネシス (金曜日)	
		内容	講師名			内容	講師名			内容	講師名
第1期	6月29日	ようこそ宇宙船地球号へ：国際人への第一歩	山田千明教授	第1期	6月22日	親子体操・表現あそび	高野牧子准教授	第1期	6月29日	わからずやさんとつき合うために	池田政子教授
第2期	10月19日	音楽あそびとコミュニケーション	村木洋子准教授	第2期	10月26日	音楽あそびとコミュニケーション	村木洋子准教授	第2期	10月19日	親子体操・表現あそび	高野牧子准教授
第3期	1月18日	親子で手遊び	樋口しずか非常勤講師	第3期	1月25日	わからずやさんとつき合うために	池田政子教授	第3期	2月1日	手を使った造形遊び	古屋祥子准教授

●2歳児 (水曜日 10:30～11:30)							
日 程		中央部 (水曜日)		日 程		北部 (水曜日)	
		内容	講師名			内容	講師名
第1期	6月27日	親子で手遊び	樋口しずか非常勤講師	第1期	6月20日	子どもの安全	堀井啓幸教授
	7月4日	自立を促す脳を育てよう	坂本玲子教授				
第2期	10月24日	一緒にクッキング！(家庭でできる食育)	鳥居美佳子准教授	第2期	10月31日	一緒に遊ぼう！(ダンボールで作ったいろいろ道具)	学生・引率 (堀井啓幸教授、 古屋祥子准教授)
	10月31日	一緒に遊ぼう！(ダンボールで作ったいろいろ道具)	学生・引率 (池田充裕准教授)				
第3期	1月16日	一緒にクッキング！(家庭でできる食育)	鳥居美佳子准教授	第3期	1月23日	劇遊び発表会	学生・引率 (古屋祥子准教授)
	1月23日	劇遊び発表会	学生・引率 (池田充裕准教授)				



### 3. 子育て食育講座

1. テーマ：子どもと大人のお弁当講座
2. 趣旨：講義・ワークショップ・調理実習を通して、子どもと家族の望ましい食事（とくに、毎日のお弁当づくりの工夫）について学ぶ。
3. 対象：進徳幼稚園 PTA（幼稚園児保護者）20 名
4. 講師：鳥居美佳子（人間福祉学部人間形成学科）
5. 日時：2012 年 6 月 7 日（木）10：00～12：30
6. 場所：山梨県立大学調理実習室
7. 実施状況

#### 1) 調理実習・ワークショップの様子

オリエンテーションの後、早速、6つのグループに分かれ、15品を分担して調理した。次に、できた料理をテーブルに並べ、各自がワンプレートランチとして、いつも通りの食事になるよう組合せた。講師が弁当箱を活用した「バランスのよい食事」について解説した後、各自持参した弁当箱に詰めながら、食事内容（質・量）を修正し、バランスのよい食事を確認した。最後は、会食しながら、食事に関する情報交換を行った。

#### 2) 受講アンケート結果より（感想・自由記述）

- ・ バランスやカロリーなど、よく耳にしますが、食べる量が具体的に目に見えるかたちでできたので、とても参考になった。
- ・ 野菜メニュー、副菜メニューのレパートリーが増えてうれしいです。
- ・ とても多くの野菜が食べられておいしくいただきました。
- ・ 豆やひじき等の乾物はいつも同じ料理になってしまうので、新しいレシピを教えてもらえてよかったです。
- ・ 魚料理が少ないので、レパートリーを増やせそうです。
- ・ ビュッフェスタイルで楽しみながら勉強できて、とてもよかったです。
- ・ 手順があまりにも簡単なのにおいしくて驚きました。家でも、作ってみようと思います。
- ・ 保存ができるレシピがたくさんあって役に立った。

#### 8. まとめ

毎回、PTAの研修担当者と一緒に企画しています。今回も要望が多岐にわたって挙げられ、食に関するニーズの高さを実感しました。今後も、実践的で日常生活に取り入れやすい講座を参加者と一緒に作り上げていきたいと思っています。



（文責：鳥居美佳子）

## 4. 子育て支援リーダー養成講座

- (1) 趣旨：地域ぐるみで子育てを目指し、地域の家庭教育・子育て支援のリーダーとして活動できる人材を養成することを目的とする。研修内容は、子育てに関わる現代的課題について、多角的に学び、ワークショップ形式を用いて実践的に検討し、協働する力を養う。
- (2) 日時：次表1参照
- (3) 場所：山梨県立大学(サテライト教室、講堂他)、県内教育事務所（第5回）
- (4) 講師：次表参照
- (5) 実施状況：平成22年度より3か年事業として山梨県教育委員会が主催し、山梨県立大学が実施機関となり、3年目の最終年度を迎えた。今年度の修了者50名を加え、149名の子育て支援リーダーを3年間で養成することができた。  
受講者の感想（原文のまま）のいくつかを、以下に挙げる。

### ①講座内容

- ・「今回子育て支援リーダー養成講座の受講では、幅広い分野での学びが今後役に立つ内容で良かったです。今後、各分野ごとにもっと深い内容の養成講座や教育・医療・家庭等が結びつくネットワーク的な支援につながる講座などが、県内で受けられると地域での体制はさらに充実していくと思います。」（甲府市）
- ・「講座内容が多角的に構成されていて、多方面にわたり学習できた。また、受動的な講座だけでなく自らが主体的に行動するなどの場面が多く組み入れられていたり、最後には実際に企画・運営をしたりということで次の実践につながる講座であった。ありがとうございました。」（北杜市）
- ・「どの講座も大変勉強になりました。社会教育課の先生方には感謝しております。講座が本年度で終了との事、残念です。これからもこのような内容の研修を続けて欲しいと願っています。」（北杜市）

### ②「地域子育て支援者交流会」の企画運営

- ・「2度目の受講でしたが、1回目の時はグループでの交流会は計画まででした。今回実施することができ、とても勉強になり、何よりも人脈が広がったことが大変うれしく思いました。ありがとうございました。」（忍野村）
- ・「グループごとになり、企画・実行し、とても勉強になりました。近隣の先生方とも仲良くなり、連絡を取り合い情報交換もしています。良い企画だと思いました。スキルアップのための講演会をもっとたくさん聴講したいです。」（甲州市）

### ③成果

- ・「この講座に参加させていただいたことで、新たな発見や学ぶことはたくさんありました。また、同じ立場である支援施設の方々と話しする機会が持てたことも、私自身とても良い刺激となりました。今後もこの講座で学んだことを生かし、支援者として協力していけたらと思います。」（甲州市）
- ・「養成講座での学びや他の方から受ける刺激が仕事への活力となっています。」（中央市）
- ・「子育て支援に関わるいろいろな人たちの存在を知ることができ良かった。今後もそういう人たちとのネットワークができればうれしいと思っています。」（甲州市）

### ④要望

- ・「ファミリーサポートセンター事業の立ち上げ、これから交流会、フォローアップ研修、養成講座など子育て中の会員や支援者に講座など企画していきたい。そのために情報の提供や講師などのサイトがあると有り難い。」（都留市）
- ・「子育て支援概論はもちろんです。現場で活かせる実践講座を希望します。相談内容に対する支援のあり方など、ロールプレイを取り入れた講座があると助かります。」（韮崎市）

表1 平成24年度子育て支援リーダー養成講座日程及び内容

回	日時・場所	内 容	講師（所属）
1	6月22日（金） サテライト教室	開講式 テーマ「子育て支援の歩みと課題」 「山梨の子育て支援の歩みと課題」 講演「やまなし親学習プログラムの活用」 ワークショップ 「地域子育て支援者交流会にむけて(1)」	池田政子氏（県大） 藤森晴江氏（都留市家庭教育支援チーム） *
2	7月6日（金） 講堂 サテライト	テーマ「子どもの健康を守り育てる」 「動いて遊んでからだづくり」 講演「子どもの健康を守り育てる ～食育をとおして～」 ワークショップ 「地域子育て支援者交流会にむけて(2)」	高野牧子氏（県大） 鳥居美佳子氏（県大） *
3	7月20日（金） サテライト	テーマ「虐待予防と対応策」 講演「子どものSOSを受けとめるには」 ワークショップ 「地域子育て支援者交流会にむけて(3)」	高戸宣人氏 （中央児童相談所 前所長） *
4	8月10日（火） 講堂	テーマ「地域でつながる子育て支援」 ワークショップ 「地域子育て支援者交流会にむけて(4)」 受講者交流会 講演「地域でつながる子育て支援 ～三鷹市での実践を通して～」 シンポジウム 「地域でつながる子育て支援」 宮沢由佳氏（NPO 法人子育て支援センター ちびっこはうす代表） 神宮司忍氏（NPO 法人 Hope 代表） 清水みゆき氏（大月市福祉課主査）	* 小林七子氏（NPO 法人子育て コンビニ代表） 進行 池田政子氏（県大） シンポジスト（左参照）
5	8月～9月 各教育事務所 （4か所）	地域子育て支援者交流会	参加者；市町村子育て支援 担当者・受講者・教育事務所職員・事務局 他）
6	9月21日（金） B120 音楽演習室	テーマ「多様な子どもへの支援」 ワークショップ 「地域子育て支援者交流会まとめ(5)」 講演「発達障がいの子どもと親への支援と連携のあり方」	* 星山麻木氏（明星大学）
7	10月12日（金） 講堂	テーマ「子育て支援リーダーの役割」 講演「親と子の心をつなぐ子育て支援のあり方」 報告会「地域子育て支援者交流会報告会」 閉講式	青木紀久代氏（お茶の水女子大学大学院） *

\*進行、アドバイス等は池田政子・高野牧子（県大）及び各教育事務所職員、社会教育課担当者で行った。

(6) 成果と今後の展望：本講座は山梨県内の子育て支援者がスキルアップを図る上で貴重な機会を提供し、支援者同士のネットワーク作りにも大きな貢献を果たしてきた。子育て支援者への講座は要望が多く、さらに高度な内容を深く学べる講座へとつなげていきたい。

（文責：池田政子・高野牧子）

## 4. 【学部共催講座】

### 1. 人間福祉学部フォーラム 2013「つながりあう福祉社会を求めて」

#### ～第3弾：語り合おう僕らが知らない現場のことを～

(1) 概要：福祉専門職の方々に現場実践についてお話をいただき、学生や地域の方々も共にディカッションし、最後に全体で議論を共有した。

(2) 日時と場所

2013年1月23日(水) 16:40-18:00 山梨県立飯田キャンパスA館6階 サライト教室

(3) ゲストスピーカー

笛吹市社会福祉協議会 後見センターふえふき 相談員 藤巻真理子さん(社会福祉士)

甲州リハビリテーション病院 医療相談室相談員 志村未智さん(精神保健福祉士)

(有)縁 指定居宅介護事業所長 窪田純子さん(介護福祉士・ケアマネージャー)

山梨県介護福祉士会 甘利俊明さん

(4) 参加人数

学生25名 教員4名 学外者6名 計34名

(文責：川池智子)

### 2. 第6回子育て支援フォーラム(人間福祉学部)

1. テーマ 「おんがくのおへやへようこそ」

歌い継ぎたい 童謡や唱歌

一緒に聴きたい オペラのアリア ピアノの名曲

2. 趣旨 子育ての中の親とそれを支援する人々、支援者になる学生たち、保育者などに子育て支援について考える場を提供することにより、本県の子育て支援の質の向上を図る。

3. 対象 子育て当事者(親子16組52名) 飯田自治会など一般大人(10名)

山梨県私立幼稚園協会10年研修該当者(4名) 本学学生(34名)

本学教職員(16名) 合計116名

4. 講師 早乙女弘枝(声楽家、春日部市合唱連盟理事)

村木洋子(ピアニスト、山梨県立大学人間福祉学部准教授)

5. 日時 2012年12月15日(土) 14時～15時半

6. 場所 山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂





7. 実施状況 童謡・唱歌・オペラのアリア・テレビドラマのうた・クリスマスソング・ピアノの名曲など計 24 曲が演奏された。人間形成学科 3 年生による造形装飾や手遊びなども加わり、高野牧子准教授の即興ダンスや、うたう絵本のコーナーでは参観者の子どもたちが一緒に踊ったり歌ったりする場面も見受けられた。

8. 参加者のアンケートより

- ・年齢にかかわらず、ピアノ、声、ダンスにそれぞれに子どもが反応している様子が興味深く、子育て中にこのような機会があるのは素晴らしいと思いました。子どもがいない観客である自分も十分楽しめるものでした。
- ・子ども連れでコンサートに行く機会はなかなか持てないので、良い企画だと思った。
- ・知っている曲も多く、ピアノの周りに行けるなどプログラムの工夫も良かった。
- ・子どもが走り回ってもマッドなので気兼ねなく楽しむことができた。
- ・本物の音楽に子どもたちが接するハートウォーミングな催しでした。

(文責：村木洋子)

### 3. 第 6 回保育リカレント講座（人間福祉学部）

□テーマ「勇気づけで育てる～子ども・保護者・自分自身と勇気づけで関わろう～」

□趣旨：現場の保育者・子育て支援者等に研修の場を提供することによって、本県の保育・幼児教育の質の向上を図る。2007～2011 年度に続き、第 6 回を開催。

□対象：保育／教育関係者、子育て中の方、子育て支援関係者、学生、その他

□講師：富士池昌代（山梨県女性相談所相談員・前中学校教諭）

□日時：2013 年 1 月 26 日（土）13：30 ～16：00

□場所：山梨県立大学 飯田キャンパス A 館 6 階  
サテライト教室

□実施状況



■内容：①講演：「勇気づけで育てる」「勇気づけの一般原理」「勇気づけとは共感的にかかわること」について

②ワークショップ：勇気づけで子どもや保護者とともに成長していくことの体験学習

■講座担当：学科教員全員、司会：山田千明

■受講者：28名（山梨県私立幼稚園協会10年研修該当者・県内保育所保育士・子育て支援関係者・小中学校教員・作業療法士等学外者20名、学生2名、職員1名、人間形成学科教員5名）

<受講感想の自由記述より>

勇気づけとは、子どもが成功したときだけではなく、失敗したときでもでき、子どもの行動のすべての行動においてできる関わりであるということが分かった／今後の保育に役立てていきたい／ワークショップでは、保育関係者だけではなく、小中学校の先生方からも意見が聞け、視野が広がった／子どもたちが自信をもち、自立・自律の第一歩を踏み出していけるよう関わっていききたい／共感するにも、年齢・発達に応じること、「ほめる」と「勇気づけ」の違い、子どもの成長のためにはどうしていくのがよいか等、改めて意識していかなければならないと思った／今日の研修が私にとって勇気づけとなった／（学校関係者より）学校の生活とは違った環境で生活している方々の思いや考え方に触れることができ、良い刺激になった。「自立できない」ことについて、生徒は幼稚だと言うが、それは大人の責任だと思った。

（文責：山田千明）



#### 4. 健康講座（看護学部）

（1）テーマ：「食べるを考える」～認知症にならないために・もしなったら～

趣旨：本講座では、県民の健康生活へのニーズに応えること目的として、高齢社会を迎えている現状の中で認知症のケアに関する講座を2011年より継続的に行ってきた。今回は、口腔ケアと認知症との関連、口腔ケアの方法について講演を依頼した。

（2）対象：地域住民、医療福祉保健職、県立大学学生および教職員

（3）講師：花形哲夫氏（山梨県歯科医師会）

（4）日程：2月2日（土）14:00～16:00

（5）場所：池田キャンパス 101 講義室

（6）実施状況：当日は、82名の参加があった。参加者からは、わかりやすい講演で、認知症介護の立場からも参考になると感想が寄せられた。講座の内容については、興味深かった（91%）、よくわかった、わかった（75%）参加者の年代は60代以上（56%）という回答があった。今回は、案内を大学ホームページに掲載し、県内の医療施設・行政機関等へポスターを配布するなどの広報活動に加え、県立大学の近隣地区にチラシを配布したことと、テレビ・ラジオで前日にイベント広報をしたことによって参加者数が82名と昨年度よりも増加した。ちらし（41.3）新聞・広報誌（28%）ラジオ（15%）勸学院でのチラシ入手（13%）HP（3%）などが情報入手方法であった。今後、一般住民のニーズにあった講座の企画・内容であることや広報の方法について再度検討する必要がある。

（文責：山田光子）

# 地域研究部門

## 1. 地域研究部門の事業概要

地域研究交流センター（以下センター）では、地域が抱えるさまざまな課題の解決および地域文化の発掘・継承に向けて研究事業を実施しており、研究事業にはプロジェクト研究事業と共同研究事業がある。本部門では、これらの事業の企画や事業の発展に向けた研究の募集、センター運営会議において協議する必要がある手続等の諸問題について資料準備、地域研究採択審議会の資料準備、研究代表者の予算執行、研究報告会の準備及び実施、報告書の作成等を実施した。

## 2. 地域研究部門事業の実績と課題について

今年度は昨年からのプロジェクト研究が4題、新たに2題加わり6題となった。また共同研究は3題で合計9題の研究を支援してきた。それぞれに3学部の専門性に関連した地域の課題を取り上げており、長年積み重ねてきた研究は地域に還元できる成果にもなっていた。また新たな研究は基礎調査段階ではあるが、今後の可能性を検討するには重要な成果が得られていた。このような結果から、地域や課題関係者等の大勢の参加の中で意見交換できたならば、研究者にとっても研究を進める上で参考となり、また新たな課題発掘の機会ともなるため大勢の参加は重要であることから、今後いかに集客するか検討が必要である。

また、今年度は「山梨県立大学地域研究交流センター地域研究授業の実施に関する要項」を改正した。それは①プロジェクト研究および共同研究の特性からの区分化・明確化が必要、②中間時および終了時における内容、方法等の適正な進捗経過と成果の確認の必要があることから要項の改正について論議され、第2条（定義）、第3条（地域研究事業の募集及び申請）、第4条（選考等）、第5条（選考結果報告等）、第6条（研究の代表者および共同研究者）、第9条（実施状況の報告）、第12条（研究成果の検証）の改正がされた。それによって、「検証委員会」が設置され研究の質のさらなる向上が図られ、予算配分の時間短縮がされることとなった。

忙しい日々の教育活度の中で研究時間を捻出し、研究者間で協働し研究を行いまとめ、報告して下さった各研究の教員および共同研究者、研究協力者の方々に心よりお礼を申し上げます。

（文責 小林たつ子、張兵）

# 1. 研究の概要

## 1. プロジェクト研究事業

今年度のプロジェクト研究は、4月センター運営委員会にて研究募集について検討し、5月研究募集を行い、5月末日で締切りプロジェクト研究6件の応募があった。昨年度以前から継続したテーマでの申請については、これまでの取り組みとその成果、さらに今年度すすめる新たな研究課題について説明を求め審査を行い、6件が採択された。下記の(1)～(6)を指定し共同研究者を募集した。(1)については、平成21年度共同研究事業から研究を開始し、平成22年度は県産品産業の発展のためにセンターのプロジェクト研究として行われ、甲斐絹を題材とする中学校での研究授業を実施、県内学生を対象にアンケートを実施し学内ゼミ活動に活かすとともにビジネス化に向けて研究を進めた。平成23年度は高校での研究授業を実施、「飯田甲斐絹堂」を設立、販売と情報の発信を行い、ビジネスとして一定の成果を収めた。平成24年度は更に甲斐絹のビジネスと、県産品の継承的生産を支援する仕組みについて研究を進めることを目的としており、引き続きプロジェクト研究にふさわしいとして指定された。(2)については、23年度は県内の外国籍の子どもたちの健康を守ることを目的として、市民団体と協力し外国人学校での健診、健康相談会等を行い、外国人学校の子どもの健康結果の分析を行った。今年度は更に公開学習会の開催を目指し、市町村の保健行政との連携強化、活動の充実、健康管理システムの構築という目的で研究を進めていくという点で、引き続きプロジェクト研究にふさわしいとして指定した。(3)については、平成21年度よりプロジェクト研究として自殺予防教育について、今年度で4段目の積み重ねとして広く地域の青少年関係者と取り組んできた観点からプロジェクト研究として指定した。(4)については、今年度より提案されたプロジェクト研究で、県内に在住する外国人の児童生徒及びその保護者が日本の文化の中で、将来的な展望についてのイメージを掴むことが困難な状況下にある点に注目し、進路進学に関する支援を追求する観点からプロジェクト研究として指定した。(5)については、今年度より提案されたプロジェクト研究で、高齢者・障害者支援のための地域連携モデルを明示し、地域コミュニティにおける支援モデルと市民後見人養成プログラムに関する基礎調査の観点で追求し、今後の地域発展に活かされる点からプロジェクト研究として指定した。(6)については、今年度より提案されたプロジェクト研究で、山梨県における農家民泊・体験が地域に根ざしていく可能性に関する基礎調査として追求し、今後の地域発展に活かされる点からプロジェクト研究として指定した。

- (1) 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について  
— 甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発 —
- (2) 多文化共生推進プロジェクト  
— 保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて —
- (3) 青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究4
- (4) 山梨県内在住外国人児童生徒の健全な育成に向けて  
— 進路・進学に関する情報提供を軸とした教育支援の実施 —
- (5) 高齢者への見守りと地域連携の総合的研究
- (6) 「山梨県における農家民泊・体験学習への地域取組」についての研究

## 2. 共同研究事業

共同研究事業は、当センターが学内の教職員から募集する研究事業である。プロジェクト研究同様に、5月の教授会にて募集し、選考委員会（6月19日）にて下記の3件（1）～（3）が採択された。（1）（2）については昨年度から引き続き、さらに発展させた研究として、センター機能に関連した重要な研究として採択された。（3）は今年度新たに組み込まれた小学校の英語教育の必修化に伴う小学校教師への英語教育の支援という新たな観点から大学の資源を活かした地域の課題に関連したテーマであることから採択された。

- （1）山梨県のコミュニティビジネスのあり方に関する研究
- （2）在宅ケアにおける専門職連携実践（IPW）推進に必要な実践能力に関する研究  
－訪問看護師と介護支援専門員の連携の実態に焦点をあてて－
- （3）山梨県内の小学校英語教育における指導者の養成と研修に関する研究

## 2. プロジェクト研究

### 1) 地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について

#### －甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発－

#### （1）研究目的

「甲斐絹」の地域文化として伝承のための教育プログラムを開発するとともに、地域や国内でのビジネス展開、発信方法を検討し、「甲斐絹」すなわち地域資源を活かしたビジネス展開の可能性を探ることを目的として研究を進めた。

#### （2）研究内容

研究会を2回、および講演会を開催した。演習における「あのひもすか」、学内会社組織「合同会社飯田甲斐絹堂」の活動としてミニノート、甲斐絹名刺入れの製作・販売を継続するとともに、甲斐絹講義時のアンケート調査を実施、分析し、新製品の開発に着手した。今後、新製品の販売の実現に向けての活動、これらの活動および平成23年度までに実施した甲斐絹を題材とした研究授業について、学会での公表が課題である。

#### （3）担当者

研究代表者：齊藤 秀子（福祉コミュニティ学科）

共同研究者：波木井昇（理事）、安達義通、黒羽雅子、箕浦一哉（総政）、古屋 祥子（形成）、五味武彦（理事）、志村結美（山梨大学大学院教育学研究科）、内藤裕利（やまなし産業支援機構）、古屋万恵（県商工労働部産業支援課）、五十嵐哲也・渡辺誠・串田賢一（県富士工業技術センター）、佐幸歌菜（県農政部花き農水産課）、伴野正明（県峡南農務事務所）前田市郎・山崎泰洋・榎田則夫・田辺丈人（甲斐絹座）、込山紀章・雨宮陽子（山梨中央銀行）、黒羽雅子ゼミ学生13名

### 2) 多文化共生推進プロジェクト：

#### －保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて－

#### （1）研究目的

本県の多文化共生の推進に寄与すべく、外国籍住民の保健、医療、福祉面での諸問題を、市民団体、

NPO、医療機関などと協働で行う活動の中から明らかにし、それをいかにして公的サービスにつなげていくか検討する。

## (2) 研究内容

外国につながる子どもたちの健康という点から、山梨県内のブラジル人学校に焦点を絞り、研究および地域貢献活動を行った。これらの学校は、一条校でないため公的助成金を全く受けられず、さらに学校保健安全法の適用がない。

本年度は、昨年に引き続き、各機関・施設との連携をはかると共に、健診活動に教員・学生が参加・協力し、その充実に寄与した。結果として、一条校並の健診が実現した。また、ブラジル人学校対象の食育セミナーと調理実習でも、中北保健所の管理栄養士と保健師、南アルプス市の食生活改善推進委員と保健師らと連携して活動の促進を図った。

研究としては、昨年度の研究結果で明らかになった肥満傾向に関しては、人間福祉学部の共同研究者、鳥居先生が栄養学的視点から食事と排便に関する予備調査を行った。また、大学の地域との連携という点から、学会発表も行った。今年度の健診結果は、ブラジル人学校から結果分析の依頼（委託）を受け、現在のところデータ入力まで完了している。健診結果記録のシステム化については、まだ検討の余地があり次年度の課題として積み残されている状況である。

その他、熱中症対処法およびノロウィルスの予防と発生時の対処法に関する多言語啓発チラシの作成にも情報提供という点から協力している。後者は、内閣府定住外国人ポータルサイトでも取り上げられている。

最後に、多文化共生推進に資するために、保健医療福祉面での取組みをより多くの市民に知ってもらうために、他県の団体の事例報告を含めた、公開学習会を2013年3月に行った。

## (3) 担当者

研究者代表：長坂 香織（看護学科）

共同研究者：鳥居美佳子（人間形成学科）、永井敬二（甲府共立病院小児科医）、名取初美・佐藤悦子・依田純子・泉宗美恵・城戸口親史・須田由紀（看護学科）

研究協力者：永井ミリアン（アルプス学園校長）、ウエハライリネウ（イノベ学園園長）、植松清司（山梨県民医連事務局長）、杉浦春充（甲府共立病院副事務長）、荻野美和子（南アルプス市立八田小学校）

## 3) 青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究4

### (1) 研究目的

研究課題①として、「学生・生徒等」の自殺の現状や研究者らが取り組んだ自殺予防に関連した教育（以下、予防教育）の成果についての高校教員の認識を検討する。

研究課題②として、A大学看護学部2年生の必修科目「精神保健論」で実施した「自殺予防」の1コマ（90分）を受講した学生の反応から予防教育の成果を検討する。

### (2) 研究内容

研究課題①では、平成24年度F研究協議会で、平成23年「学生・生徒等」の自殺の現状や予防教育の成果を報告し、参加した教員41名を対象に「参考になった」程度と理由についてアンケートを郵送し回収した。結果は回収率34.1%、全員肯定的回答で、理由は「高校生の自殺の原因で一番多いのが

学校問題であることを改めて認識する必要がある…」、「原因や動機で学校問題が41%、学校現場は何か対策をしなければ…」等の認識が得られた。

研究課題②では、成績確定後に学生に2種類の授業記録の提出や授業4ヶ月後にアンケートを依頼した。授業記録は質的に分析し、アンケートは普段の生活に「役に立った」程度と理由について整理した。結果は、授業記録の提出率24.2%、授業記録から学修成果として、64個のコード、13個のカテゴリーが生成された。アンケートの回収率40.4%で、「役に立った」と肯定的回答85%、理由は「自殺や自殺予防の知識が増えた」、「自殺予防に興味・関心が増えた」、「身近な家族や友人の『いつもと違う』に寄り添える」、「自殺願望のある人に会ったら学びを活かし対応したい」等で、一定の成果が得られた。

### (3) 担当者

研究代表者：清水 恵子(看護学科)

共同研究者：大塚ゆかり(人間福祉学部)、山中達也(人間福祉学部)

岡部順子(保健センター)、佐野和規(山梨県立中央高等学校)

## 4) 山梨県内在住外国人児童生徒の健全な育成に向けて

### ～進路・進学に関する情報提供を軸とした教育支援の実施～

#### (1) 研究目的

外国人児童生徒が日本という異文化の教育環境で必要な情報を得ることができず、将来的な展望についてのイメージを掴むことができない現状を改善するため、外国人住民から聞き取り調査を行うと同時に、文部科学省及び他県の進路進学支援状況を調査し、山梨県で必要な進路進学情報とは何かを分析する。

#### (2) 研究内容

外国人児童生徒が日本の学校で学業を継続し、かつ将来のキャリア形成に必要な情報を得るための提供サイトの作成を目的とした調査研究を行った。

今年度の活動は下記の通りである。

- ① 国、自治体、NPO等が作成した外国人児童生徒のための進路・進学ガイドの分析
- ② ①を基に、地域在住の外国人保護者に対する聞き取り調査と分析
- ③ ①を基に、地域支援者(日本人)に対する聞き取り調査と分析
- ④ ①～③を基にした、情報内容の選別と提供方法の検討
- ⑤ 地域共同研究者とのWGによる情報資料の作成(継続中)
- ⑥ WEBサイトの構築(継続中)

#### (3) 担当者

研究代表者：安藤 淑子(国際コミュニケーション学科)

共同研究者：池田充裕(人間形成学科) 原田かおり(県立大学非常勤講師)

川手ちなみ(南アルプス市国際交流協会にほんごサロン講師)

小林信子(ユニタス日本語学校非常勤講師)

斉藤祐美(ソリダリダー日本語教室講師)

\*その他協力者：地域支援者、外国人保護者、県立大学学生など

## 5) 高齢者への見守りと地域連携の総合的研究

### (1) 研究目的

本県における高齢者（含む障害者）支援のための地域連携モデルを明示し、地域コミュニティにおける支援モデルの実効性と課題について検討する。併せて、本学において「市民後見人養成プログラム」の具体化に向けての基礎調査を行う。

### (2) 研究内容：

今年度は、国内調査と支援モデルの検討にあて、地域コミュニティにおける高齢者の財産管理や身上監護の実態把握と課題・論点の整理を行った。山梨県内の地域コミュニティを調査対象とし、その中で主として高齢者に特有な財産管理上の問題点を明らかにした。

最初に、山梨県における高齢化社会の現状と課題を概観し、成年後見制度の概要（法定後見制度・任意後見制度）と後見制度を支援する仕組みを整理し、後見制度についての現代的な課題について明らかにした。次に、海外の成年後見制度を概観し、イギリスとドイツを中心に、先進的な海外の事例を紹介し、わが国への示唆を得るとともに、日本で開催された成年後見法世界会議で採択された「横浜宣言」の内容を検証した。そして、市民後見人と地域連携から、市民後見人の概要とその運用、育成について自治体で行われる具体的なプログラムについて明らかにした。最後に、北杜市、笛吹市での市民後見人養成の具体的な取り組みについて紹介し、山梨県立大学でのシンポジウムから、大学の果たす地域での役割について言及した。

### (3) 担当者

研究代表者：澁谷 彰久（総合政策学科）

共同研究者：依田純子（看護学部講師）・伊藤健次（人間福祉学部講師）・藤巻真里子（笛吹市社会福祉協議会 後見センターふえふき）・萩原学（笛吹市社会福祉協議会后見センターふえふき）・小林恵（リーガルサポート山梨 司法書士）

## 6) 山梨県における農家民泊・体験学習への地域取組についての研究

### (1) 研究目的

全国の間中山地では、高齢化、過疎化、耕作放棄などが進んでいます。行政が様々な助成金を出し色々な試みをしてはいますが、その成果が上がっているとは思えません。

そんな中で、農家民泊・体験学習ツアーを組織的に行い、大きな経済効果と共に住民の生きがいを作る事業が、いくつかの地域で始まっています。最も成功しているといわれているのが、長野県飯田市地域です。ここには、2001年1月に設立した南信州観光公社が体験型観光による旅の創造を提供・運営し、年商2億円を越えています。

また、薩摩半島地域でも、15自治体が同様の試みを行っており、来年中には鹿児島県全域に広げる計画です。農家としては、宿泊しながら農作業を手伝ってもらえん、現金収入を得られ、宿泊者は農家と語らうことで農業や里山の大切さを学ぶこととなります。

山梨でもNPO等や小さな単位で同じような試みはされていますが、規模の広がりには難しい段階です。今回の研究は、山梨においてそのビジネスモデルを実際に作り上げられるように調査・研究することです。4年間の計画の中で、実施までこぎつけたいと思います。

今回の研究は、結論を出すというよりも、「農家民泊」に関する情報を収集し、今後の展開のために



必要なデータブックを作成することです。

(2) 研究内容：

「農家民泊」の情報と課題を洗い出すために各種調査を行った。

10月26日～27日 丹波山村商工会主催の講演会で前澤哲爾が講演

「農家民泊による地域活性化」(資料編に収録) 住民との意見交換会

11月2日 長野県飯田市「南信州観光公社」および民泊提供農家への視察

12月2日 山梨県農政部農政企画監 原昌司氏講演

「山梨県における農業の現状と6次産業化政策」(資料編に収録)

学生による調査報告発表「日本各地の民泊事情」

12月20日 山梨県観光振興課との意見交換

1月25日 自治体向け「農家民泊」アンケート発送

2月8日 アンケート結果集計

3月5日～6日 飯田市の農家民泊モニター 2軒6名宿泊

これらをまとめ、「プロジェクト研究」報告書を作成し、3月26日研究報告会で公表した。

(3) 担当者

研究代表者：前澤 哲爾 (国際コミュニケーション学科)

共同研究者：山梨県観光部観光推進課 古屋美代子、山梨県農政部農政企画監 原昌司

(株)南信州観光公社 高橋充、NPOエコリンクアソシエーション 下津公一郎

(学生スタッフ) 栗又麻里奈, 三枝美里, 桂川直子, 治面地啓, 田畑圭一朗, 石原綾夏

伊藤清楓, 大沼千尋, 鈴木佑実, 長井芽衣, 中村麻結, 松藤華子, 山内玲菜

### 3. 共同研究

#### 1) 山梨県のコミュニティビジネスのあり方に関する研究Ⅱ

(1) 研究目的

平成23年度の研究においては、山梨県内においてコミュニティビジネスを展開している団体の実態を把握すべく、アンケート調査及びヒアリング調査を実施した。その結果、ビジネスとして成立している団体が少なく、経営上、多く団体が経営上、多くの問題を抱えていることがわかった。そこで本年度は、山梨県のコミュニティビジネス団体が組織として、安定的かつ継続的に経営を続けていくためにはどうすればよいのか、優良事例の分析を通して、明らかにすることを目的とした。

(2) 研究内容

上記の目的を踏まえ、山梨県のコミュニティビジネス先進団体へのヒアリング調査を行った。ヒアリング対象は、NPO法人子育て支援センターちびっこはうす、NPO法人スペースふう、NPO法人えがおつなげて、NPO法人南アルプスファームフィールドトリップの4団体とした。

分析の視点として、時間軸と空間軸に着目した。時間軸としては、組織の発展を5つに分割した「5ステップ」というフレームワークを作り、分析を行った。5ステップとは、①着想期 ②ソーシャルキャピタル形成期 ③ソーシャルビジネスモデル形成期 ④ソーシャルチャレンジ期 ⑤ソーシャルインパクト期の5つの時間区分であり、優良4団体が、これらのステップをどのように踏んでいったのか分析を行った。

空間軸としては、① Company (仲間) ②Customer (顧客) ③Cooperator (提携・協業者) ④Contributor (出資者) ⑤Community (コミュニティ) の5つの視点を設定し、先進4団体がこれらの5つの対象とどのような関係を結んでいるのか分析を行った。

このように、時間軸、空間軸の視点から4団体を分析し、4団体が成功している要素を浮き彫りにした。

### (3) 担当者

研究代表者：安達 義通 (総合政策学科)

共同研究者：箕浦一哉 (総政)・池田政子・高野牧子 (人間形成)・曾根原久司・野澤智博・斎藤あい (えがおつなげて、やまなしコミュニティビジネス推進協議会幹事団体)、宮沢由佳 (NPO法人子育て支援センターちびっこはうす、やまなしコミュニティビジネス推進協議会幹事団体)、永井寛子 (NPO 法人スペースふう、やまなしコミュニティビジネス推進協議会幹事団体)、小野隆 (NPO 法人南アルプスファームフィールドトリップ、やまなしコミュニティビジネス推進協議会幹事団体)、広石拓司 (株式会社エンパブリック)、込山紀章・雨宮陽子 (株式会社山梨中央銀行営業統括部)

## 2) 在宅ケアにおける専門職連携実践【IPW】推進に必要な実践能力に関する研究

### －訪問看護師と介護支援専門員のインタビュー調査－

#### (1) 研究目的

訪問看護師の介護支援専門員との連携の困難性と課題の構造を明らかにし、連携の課題解決に向けた実践能力を身につけるための方略の示唆を得る。

#### (2) 研究内容

平成23年に実施したIPWの実態調査において、訪問看護師、介護支援専門員双方とも、連携において互いの役割を理解し、円滑なコミュニケーションを図ることを意識するなど、積極的に連携を図ろうとしている一方で、【情報の共有化】【信頼関係】において両者の意識の相違や課題を感じていることが明らかとなった。この結果をふまえ、双方の連携に関する困難性と課題は何かを明らかにすることが必要と考え、本研究では、ベテラン訪問看護師8名へのフォーカスグループインタビューを実施した。インタビュー内容は逐語録におこし、「情報共有の困難点あるいは課題と感じていること」について表している記述内容を抽出し、質的統合法(KJ法)により分析した。その結果、訪問看護師と介護支援専門員との連携の困難性と課題について、6つの最終ラベル及びシンボルマークが抽出され、それぞれの関係性を考慮しながら、その内容の構造化を試みた結果、次の通りであった。ベテラン訪問看護師が感じる介護支援専門員との連携の背景には、【病院や行政、訪問看護ステーション等の連携なくしては生き残れないという危機感】に裏付けられた【連携の必要性に関する意識の高まり】が浸透してきていることがある。訪問看護師と介護支援専門員の連携の現状について、ベテラン訪問看護師は、【連携能力の個人差】として、【介護支援専門員や訪問看護師の積極性、相互理解、コミュニケーション能力の差】を感じている。そのために【看護師の医療的アセスメントの伝わりにくさと情報伝達のタイミングのずれ】といった【介護支援専門員との情報共有の困難性】を実感している。しかし、【うちとけた関係づくりを基盤にした情報共有への努力】として【看護師の威圧的な雰囲気改善と意味が伝わるような情報伝達の努力】をしている。同時に【連携していくための苦労と工夫】として【サービス担当者同士の直接連携と介護支援専門員を介しての連携の使い分けや連携への提案】をしている。このような訪問看護師の努力と工

夫は【研修会への参加、タイムリーな対応、看護師との同行と意見交換】といった【情報共有に対する介護支援専門員の積極的な姿勢】に影響を及ぼすという論理構造を持つことが明らかになった。

したがって、情報共有を今後円滑にすすめていくためには、今回明らかとなった現場において日頃実践されている情報共有のための努力や工夫を、意図的な情報共有を実践するための方略として精選し、実践現場における IPE プログラムに組み入れていくことが必要となる。

### (3) 担当者

研究代表者： 泉宗 美恵（看護学科）

共同研究者： 依田純子・須田由紀・井出成美・佐藤悦子（山梨県立大学看護学部）

雨宮きよ子（山梨県訪問看護ステーション連絡協議会）

並木奈緒美（山梨県介護支援専門員連絡協議会）

## 3) 山梨県内の小学校英語教育における指導者の養成と研修に関する研究

### (1) 研究目的

この研究においては山梨県内の小学校における「外国語活動」（英語教育）の運営をサポートする研修プログラムを研究・構築し、小学校教諭のためのセミナーおよびワークショップを開催する。現在、必修となっている「外国語活動」は担任主導で行われているが、英語教育の経験がない小学校教諭が担当するケースが多く、現場の混乱や教師の困惑は看過できない問題である。その問題を解決するために、この研修プログラムでは受講者となる小学校の先生方に英語教育の基本的な理論を理解した上で具体的な教授方法を実践によって修得してもらい、その成果が地域の教育現場に十分に還元されることを目的とする。と同時に、この研究を遂行することによって、教育学系学部を持たない山梨県立大学が、今後継続して地域の英語教育の発展に貢献する最良の形を見極めたい。

### (2) 研究内容

山梨県内の「外国語活動」に特に精通する小学校教師と本学専任教員との共同研究の形態をとり、現在の山梨県内の小学校「外国語活動」の状況、問題点、担当者の疑問・不安などを調査・分析し、それを踏まえて課題を解決する内容の研修プログラムを構築した。本学ならではの研修内容を提供するため、県立大学と長年にわたり教育研究の交流を行っている英国ヨーク大学英語教育センターから、「外国語としての英語教授法（TESOL）」および「英語教師研修（Teacher Training）」の専門家を研修プログラムの講師として招聘した。ヨーク大学スタッフは日本人英語教師の養成・研修に関しても十分な経験と知識を持つため、受講者に最適なレベルと内容のセミナーを開講することができた。受講者が理論を学びそれを実践によって身につけ、その成果が日々の「外国語活動」の取り組みに反映されることをこの研究の目標としたが、講座終了後受講者からのフィードバックを受け、初めての試みとしてはある程度の成功を収めたと考えている。また、英国ヨーク大学スタッフとの学術交流ができたことは非常に大きな収穫であった。課題は多く残っているため、共同研究者と共に講座全体の反省を行い、さらに充実した研修プログラムを地域の中で提供できるように細部の検討を続けている。

### (3) 担当者

研究代表者： 高野 美千代（国際コミュニケーション学科）

研究分担者： 高見澤 肇（甲府市立新紺屋小学校）、石田 一元（甲府市立石田小学校）

伊藤ゆかり（国際政策学部）、池田 充裕（人間福祉学部）

## 4. 研究報告会

平成 24 年度の研究報告会が、3 月 26 日（火）13：30～16:00 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室及び 606 教室で行われた。プロジェクト研究 6 題、共同研究 3 題が発表された。総数で約 24 名の参加があり、参加者は少なかったが質疑応答では今後さらに研究を発展させる内容の質問や討議がされ、有意義な研究報告会となった。

サテライト教室での発表は看護、福祉、教育関連の発表演題であった。介護・福祉関連の方や NPO で活躍中の方、教職の方などの参加があり、職種の連携とその関係性やシステムなどへの意見、質問があり、教育関連では日頃の教育や学校生活の中へ、いかに研究成果を生かすか、また公的な指導との連携などについて質疑応答がなされた。

606 教室での発表は地域資源を活かしたビジネスモデルやビジネス展開および高齢者への公的・法的支援についての発表であった。参加者からその具体的な手法や効果などについて質問がなされ、また、報告で取り上げられたモデルのインプリケーションと発展の可能性について提言されており、たいへん有益な議論がされた。

発表時間 20 分、質疑応答 10 分で行ない、参加者全員から意見、感想、質問をいただくことができ、参加者からの実践や現実に即した内容の発言によって討議が深められた。参加者が少なかったことについては今後検討の余地がある。

（文責 小林たつ子、張兵）

# 事務局

## 1. 運営委員会記録

1. 第1回 平成24年4月9日（月）  
主な協議・報告事項：平成24年度の計画について／ニューズレター企画案について／春季総合講座企画案について
2. 第2回 平成24年5月1日（火）  
主な協議・報告事項：授業開放講座の要項等について／平成23年度地域研究交流センター地域研究事業の募集について
3. 第3回 平成24年5月22日（火）  
主な協議・報告事項：「山梨の自然・文化の魅力発見シリーズ」講座案について／平成24年度地域研究交流センター共同研究・プロジェクト研究の追加募集について／ニューズレターNo. 17の企画内容／センターウェブサイト改修案
4. 第4回 平成24年6月12日（火）  
主な協議・報告事項：センター共同研究・プロジェクト研究の申請状況について／春季総合講座の実施／県民コミュニティカレッジの地域ベースのテーマ及び日時／センターウェブサイト改修案
5. 第5回 平成24年7月3日（火）  
主な協議・報告事項：将来構想検討委員会 センターの将来像／センター共同研究・プロジェクト研究の応募状況／県民コミュニティカレッジの広域ベースの講師／学部共催講座の予算
6. 第6回 平成24年7月24日（火）  
主な協議・報告事項：授業開放講座の応募状況について／ニューズレターNo. 17の作成状況と配布先／ホームページの改善案
7. 第7回 平成24年9月27日（火）  
主な協議・報告事項：教員の地域貢献活動支援申請について／山梨県立大学地域研究交流センター地域研究事業の実施に関する要項改正案／「大学の地域貢献度に関する全国調査」について
8. 第8回 平成24年10月23日（火）  
主な協議・報告事項：大学COC機能の強化について／山梨県立大学地域研究交流センター地域研究事業の実施に関する要項改正案について／ニューズレターNo. 18の企画内容
9. 第9回 平成24年11月27日（火）  
主な協議・報告事項：平成25年度予算案／山梨県立大学地域研究交流センター地域研究事業の実施に関する要項改正案について／観光講座の参加者数／学生優秀地域プロジェクト認定
10. 第10回 平成24年12月25日（火）  
主な協議・報告事項：山梨県立大学地域研究交流センター地域研究事業の実施に関する要項改正案

／プロジェクト研究・共同研究の発表会／ニューズレターNo. 18 の企画内容

11. 第 11 回 平成 2 5 年 1 月 2 2 日 (火)

主な協議・報告事項：特任教授の再任について／平成 2 5 年度の年度計画の作成／観光講座の資料の製本化／学生表彰について

12. 第 12 回 平成 2 5 年 2 月 2 6 日 (火)

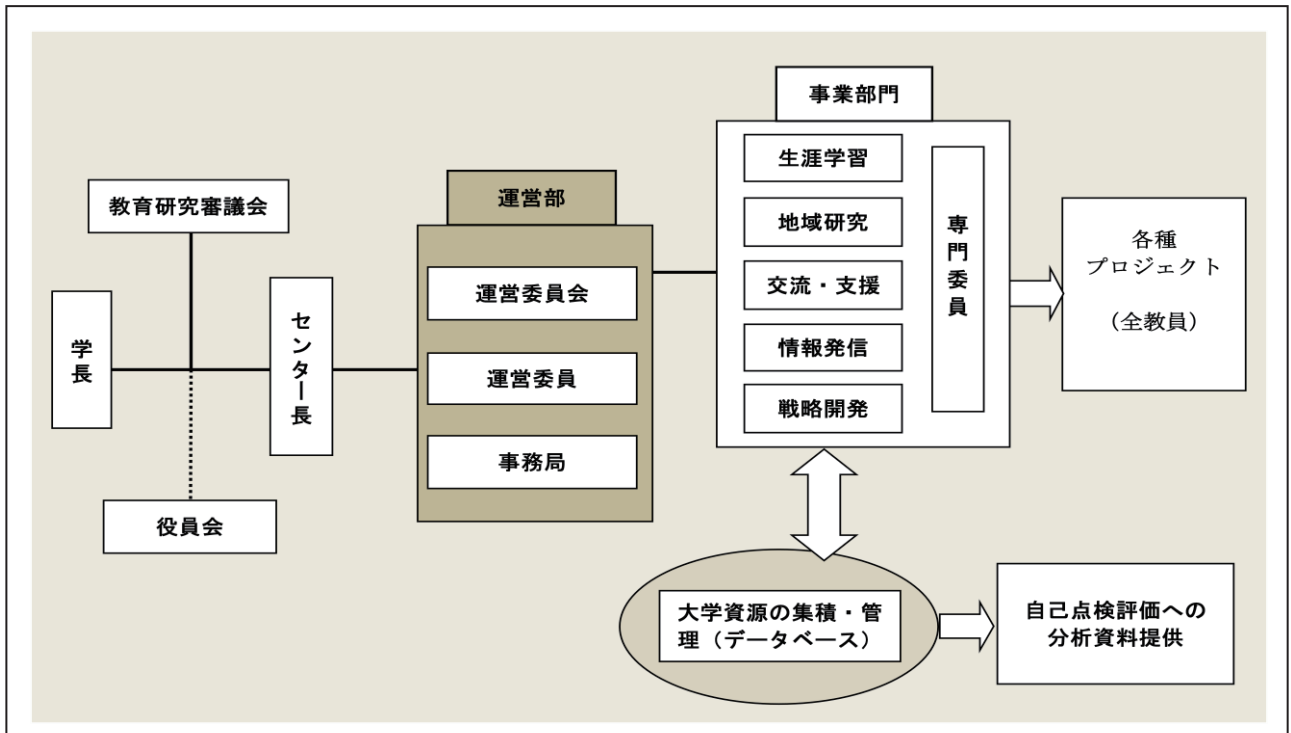
主な協議・報告事項：新大学案内・地域研究交流センター紹介ページについて／春季総合講座について／授業開放講座のチラシ案

13. 第 13 回 平成 2 5 年 3 月 2 6 日 (水)

主な協議・報告事項：地域研究交流センター特任教授について／平成 2 4 年度公立大学法人山梨県立大学年度計画について／平成 2 4 年度地域研究交流センター運営委員会活動実績・評価／次年度以降のセンターの活動

# 1. 組織図・委員名簿

## (1) 組織図



## (2) 委員名簿

	総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニティ学 科	人間形成学科	看護学科	
地域研究交流センター 運営委員会	玉井 箕浦	前澤 張 吉田(均)	神山 川池 大塚	村木	小林(た) 望月(宗)	
事業部門(専門委員)	交流・支援	箕浦	○吉田(均)	◎川池 柳田	<u>渡邊(裕)</u>	
	情報発信	◎箕浦	平野	○大塚	<u>池田(充)</u> 山田 大久保	
	生涯学習	玉井	安藤	神山	村木	◎望月(宗) 山田
	地域研究		○張	—		◎小林
	戦略開発		◎前澤	—		
特別 担当	看護・福祉専門職支援コーディネーター		下村		<u>渡邊(裕)</u>	

運営委員は専門委員を兼務 ◎ 部門長 ○ 副部門長

下線は 運営委員以外の専門委員

### 3. 地域研究交流センター委員一覧

(運営委員 \*)

学部	学科	氏名	専門領域
国際政策学部	総合政策学科	玉井亮子 *	政治学、行政学
		箕浦一哉 *	環境社会学
	国際コミュニケーション学科	前澤哲爾 *	映像メディア論
		吉田均 *	国際開発・国際協力
		張兵 *	中国史・中国経済・アジア事情
		平野和彦	中国近代文化論
		安藤淑子	日本語教育
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	神山裕美 *	社会福祉援助技術論
		川池智子 *	社会福祉原論、児童・障害者福祉
		大塚ゆかり *	精神保健福祉
		柳田正明	知的障害者福祉・地域生活支援
		下村幸仁	社会保障論
	人間形成学科	村木洋子 *	教育学・教育経営
		池田充裕	教育学・比較教育
看護学部	看護学科	小林たつ子 *	基礎看護学
		望月宗一郎 *	地域看護学
		渡邊裕子	老年看護学
		大久保ひろ美	小児看護学
		山田光子	精神看護学
地域研究交流センター		輿水達司 *	



## 資料 1. 年間の時系列記録

月日	事業・行事名	部門名
2012年4月9日	地域研究交流センター第1回運営委員会	
2012年4月20日	前期 授業開放講座募集〆切	
2012年4月23日	第1回情報発信部門会議	情報発信
2012年4月25日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」第16号発行	情報発信
2012年5月1日	地域研究交流センター第2回運営委員会	
2012年5月14日	第2回情報発信部門会議	情報発信
2012年5月20日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年5月22日	第1回交流・支援部門会議	交流・支援
2012年5月22日	地域研究交流センター第3回運営委員会	
2012年5月27日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年6月3日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年6月7日	第3回子育て食育講座	
2012年6月6日	第1回生涯学習部門会議	生涯学習
2012年6月9日	春期総合講座	生涯学習
2012年6月10日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年6月12日	地域研究交流センター第4回運営委員会	
2012年6月14日	幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2012年6月15日	池田地区防災訓練準備会への参加	交流・支援
2012年6月17日	日本語・日本文化講座	生涯学習

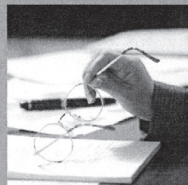
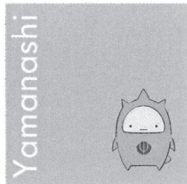
2012年6月19日	幼児教育センター一月例別講座（看護学部）	生涯学習
2012年6月20日	幼児教育センター一月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年6月21日	幼児教育センター一月例別講座（看護学部）	生涯学習
2012年6月22日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2012年6月22日	幼児教育センター一月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年6月24日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年6月25日	第3回情報発信部門会議	情報発信
2012年6月27日	幼児教育センター一月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年6月28日	幼児教育センター一月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2012年6月29日	幼児教育センター一月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年6月30日	『2011年度山梨県立大学地域研究交流センター一年報』発行	情報発信
2012年7月1日	観光講座第1回	生涯学習
2012年7月1日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年7月3日	幼児教育センター一月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2012年7月3日	地域研究交流センター第5回運営委員会	
2012年7月4日	幼児教育センター一月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年7月6日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2012年7月6日	子育て食育講座	生涯学習
2012年7月8日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年7月9日	地域自治会との情報交換会	交流・支援
2012年7月15日	日本語・日本文化講座	生涯学習

2012年7月20日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2012年7月22日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年7月23日	第4回情報発信部門会議	情報発信
2012年7月24日	地域研究交流センター第6回運営委員会	
2012年8月10日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2012年8月26日	池田地区防災訓練への協力	交流・支援
2012年8月31日	授業開放講座チラシ・ポスター送付	
2012年9月4日	第5回情報発信部門会議	情報発信
2012年9月20日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」第17号発行	情報発信
2012年9月21日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2012年9月27日	地域研究交流センター第7回運営委員会	
2012年9月29日	観光講座第2回	生涯学習
2012年10月6日	観光講座第3回	生涯学習
2012年10月12日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2012年10月12日	後期 授業開放講座募集〆切	
2012年10月13日	観光講座第4回	生涯学習
2012年10月14日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年10月16日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習
2012年10月19日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年10月20日	観光講座第5回	生涯学習
2012年10月21日	日本語・日本文化講座	生涯学習

2012年10月23日	地域研究交流センター第8回運営委員会	
2012年10月23日	第6回情報発信部門会議	情報発信
2012年10月23日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習
2012年10月24日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年10月25日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習
2012年10月26日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年10月27日	観光講座第6回	生涯学習
2012年10月28日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年10月31日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年11月3日・4日	富桜祭で福祉専門職交流コーナー設置	交流・支援
2012年11月8日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習
2012年11月11日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年11月18日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年11月27日	地域研究交流センター第9回運営委員会	
2012年11月27日	第7回情報発信部門会議	情報発信
2012年12月2日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年12月2日	県民コミュニティカレッジ（地域ベース）第1回	生涯学習
2012年12月8日	県民コミュニティカレッジ（地域ベース）第2回	生涯学習
2012年12月9日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年12月15日	県民コミュニティカレッジ（地域ベース）第3回	生涯学習
2012年12月15日	子育て支援フォーラム（人間福祉学部）	生涯学習

2012年12月16日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年12月18日	県民コミュニティーカレッジ広域ベース講座 女性の健康エンパワメント	生涯学習
2012年12月19日	第8回情報発信部門会議	情報発信
2012年12月22日	県民コミュニティーカレッジ広域ベース講座 しらべる ～情報の活用、収集など～	生涯学習
2012年12月25日	地域研究交流センター第10回運営委員会	
2013年1月8日	県民コミュニティーカレッジ広域ベース講座 富士山・富士五湖の新しい地球観	生涯学習
2013年1月16日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2013年1月18日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2013年1月20日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2013年1月22日	地域研究交流センター第11回運営委員会	
2013年1月23日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2013年1月23日	「学生優秀地域プロジェクト」選考委員会	交流・支援
2013年1月27日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2013年1月23日	学部講演会（人間福祉学部）人間福祉フォーラム	生涯学習
2013年1月25日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2013年1月26日	保育リカレント講座（人間福祉学部）	生涯学習
2013年1月27日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2013年1月29日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習
2013年1月30日	「学生優秀地域プロジェクト」認定式	交流・支援
2013年1月31日	小学校英語教育 指導者トレーニングプログラム	
2013年1月31日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習

2013年2月1日	幼児教育センター月例別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2013年2月2日	小学校英語教育 指導者トレーニングプログラム	
2013年2月2日	健康講座（看護学部）	生涯学習
2013年2月3日	小学校英語教育 指導者トレーニングプログラム	
2013年2月5日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習
2013年2月7日	幼児教育センター月例別講座（看護学部）	生涯学習
2013年2月20日	第2回生涯学習部門会議	生涯学習
2013年2月26日	地域研究交流センター第12回運営委員会	
2013年3月3日	池田地区健康祭りへの協力	交流・支援
2012年3月15日	第9回情報発信部門会議	情報発信
2013年3月26日	地域研究交流センター第13回運営委員会	
2013年3月26日	2012年度 研究報告会	
2013年3月27日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」第18号発行	情報発信



# 春から勉強を始めてみたい!

その気持ち、応援します!

授業開放講座とは、大学の正規の授業を広く県民の皆様と  
 学生と一緒に受講していただくことができる講座です。  
 学生たちと共に学ぶ授業開放講座に、  
 広く県民の皆様が受講されることをお待ち申し上げます。



## 山梨県立大学 前期 授業開放講座 2012

### 受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方ならどなたでも受講応募ができます。受講の決定にあたっては、各科目担当教員が選考条件を定めますので、別途配布する募集要項でその条件をご確認ください。

### 授業開始日

平成24年4月12日より順次

### 場所

山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1)  
 山梨県立大学池田キャンパス(甲府市池田1-6-1)  
 授業によって異なりますので、別途配布する募集要項でご確認ください。

### 募集要項の請求

受講生募集要項の事前予約を受け付けます。実際の配布は平成24年3月末頃から行う予定です。  
 TEL055-224-5260、FAX055-224-5386、  
 Eメールucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jpにて平成24年度前期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付をお申し込みください。  
 なお、FAXまたはEメールの場合、件名として「平成24年度前期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付希望」とお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

### 講座の試聴

受講を考えているが、講座の内容がよく分からないので確認したいという方は、平成24年4月12日から20日まで講座の試聴をすることができます。  
 FAX055-224-5386、Eメールucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jpにて、受講しようとする科目の開講の前日までに山梨県立大学授業開放講座試聴申込書を提出してください。

### 受講申込書の送付先及び申込期限

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学学務課  
 平成24年4月20日 午後5時(必着)

## 日本で生活する外国人のための

# 日本語・日本文化講座

For foreigners living in Japan,  
Japanese language and culture course

外国人生活在日本、日本語と文化講座

일본에서 생활하는 외국인을 위한 일본어 일본 문화 강좌

Para os estrangeiros que vivem no Japão  
Curso de língua e cultura japonesa

Para los extranjeros que viven en Japón  
Curso de lengua y cultura japonesa

日時	毎週日曜日 13:00-15:00
場所	山梨県立大学A館6階606教室
期間	1期：5月20日-7月22日 / 2期：10月14日-1月27日
クラス	・初級1クラス、ひらがな・カタカナ学習 ・初級2クラス、漢字学習 ・中級クラス、漢字学習 ・日本文化・社会について
受講料	無料（*但し教材は実費）
駐車場	あり

お問い合わせ先

山梨県立大学学務課 055-224-5260

主催 山梨県立大学/甲府市

連携：ソリタリター日本語教室



山梨県立大学地域研究交流センター

# 2012 春季総合講座



特別企画

山梨県立大学3学部共催シンポジウム

統一テーマ

## あなたの老後、どう支えますか？

— 市民と専門職の地域連携を目指して —

山梨県内でも、高齢者・一人暮らし世帯の増加と共に、認知症ケアや財産管理など様々な形での支援やネットワーク作りが求められています。地域住民と専門職の連携、介護予防、権利擁護など多様な高齢化に対する課題を横断的に議論し、山梨の将来へ向けた提言を山梨県立大学から発信します。



司会：国際政策学部 澁谷彰久 教授

個別報告

報告1 「超高齢社会を生きる－認知症への対応」

看護学部 依田純子 講師

報告2 「高齢者の見守りと地域の課題」

人間福祉学部 伊藤健次 講師

報告3 「市民後見人の養成と課題」

笛吹市社会福祉協議会 後見センターふえふき 藤巻真里子

パネルディスカッション

### 「地域における高齢者の見守りを考える」

パネリスト

看護学部 依田純子 講師  人間福祉学部 伊藤健次 講師

笛吹市社会福祉協議会 後見センターふえふき 萩原学

リーガルサポート山梨 小林恵 司法書士



## 山梨県立大学

飯田キャンパス

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL.055-224-5261 FAX.055-228-6819

●開催日時・場所

平成24年6月9日(土曜日) 13:00～16:00

山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1) 講堂

●参加申し込み

参加費は無料です。

TEL055-224-5260、FAX055-224-5386

Eメール:ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jpにて

お申し込みください。

なお、FAXまたはEメールの場合は件名として「春季総合講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

◆主催：山梨県立大学 地域研究交流センター



# 富士山 世界遺産 登録へ



山梨県立大学  
観光講座2012

参加無料



来年夏、世界遺産登録が予想される富士山。国内外から多くのお客さまが山梨に来られます。県民の皆さんは、富士山についてどれだけご存じでしょうか？

富士山の誇るべき自然や文化の学術的価値と保全・管理のための方策について、6回連続講座を企画しました。あなたの知らない「富士山の実像」に迫ります。

Yamanashi Prefectural University

**開催時間** 午後1時30分～午後4時30分（受付は午後1時から）

**開催場所** 山梨県立大学飯田キャンパス 講堂（甲府市飯田5-11-1）

1. 富士山の世界遺産への道筋（平成24年7月1日（日））
  - 1-1：文化遺産としての登録の意義 放送大学 五味文彦教授
  - 1-2：富士山の文化遺産の特徴 山梨県学術文化財課 森原明廣氏
2. 富士山をとりまく歴史・民俗（平成24年9月29日（土））
  - 2-1：信仰の山・富士の歴史 山梨県埋蔵文化財センター元所長 新津 健氏
  - 2-2：富士山の民俗 山梨県立博物館 堀内真氏
3. 富士山の誕生と富士五湖（平成24年10月6日（土））
  - 3-1：富士山の誕生と変遷 山梨県環境科学研究所 荒牧重雄所長
  - 3-2：富士五湖の誕生と変遷 山梨県立大学地域研究交流センター 輿水達司特任教授
  - 3-3：富士北麓の溶岩洞窟 富士河口湖町生涯学習課 杉本悠樹氏

4. 富士山の芸術と文学（平成24年10月13日（土））
  - 4-1：富士山の絵画表現 山梨県郷土研究会 高橋晶子氏
  - 4-2：富士山と文学 山梨県立文学館 高室有子氏
  - 4-3：彫刻に表現された富士山信仰 山梨県立博物館 近藤暁子氏
5. 富士山麓の地下水と富士五湖（平成24年10月20日（土））
  - 5-1：富士山地下水と富士五湖の水 山梨県立大学地域研究交流センター 輿水達司特任教授
  - 5-2：西湖に生息するクニマス 山梨県水産技術センター 高橋一孝所長
  - 5-3：富士五湖の漁業の歴史 山梨県立博物館 植月学氏
6. 富士山周辺の環境・保全（平成24年10月27日（土））
  - 6-1：富士山麓の水環境の変遷 山梨県衛生環境研究所 吉澤一家博士
  - 6-2：富士登山と観光と環境 富士吉田口旅館組合 井上義景氏

## 参加申し込み

TEL 055-224-5260 FAX 055-224-5386 E-mail [ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp)  
にてお申し込みください。

なお、FAXまたはE-mailの場合、件名として「観光講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター

# 平成24年度後期授業開放講座 受講申請受付中!

授業開放講座とは、大学の正規の授業を広く県民の皆様へ学生と一緒に受講していただくことができる講座です。  
平成23年度後期に始まったこの制度が、皆様のご要望にお応えして今期は大幅に科目数が増えます。  
学生たちと共に学ぶ授業開放講座に、広く県民の皆様が受講されることをお待ち申し上げます。



もう一度勉強してみようかな・・・  
そう思ったら始めましょう!

## 受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方ならどなたでも受講応募ができます。  
受講の決定にあたっては、各科目担当教員が選考条件を定めますので、別途配布する募集要項でその条件をご確認ください。

## 場 所

山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1)  
山梨県立大学池田キャンパス(甲府市池田1-6-1)  
授業によって異なりますので、別途配布する募集要項でご確認ください。

## 講座の試聴

受講を考えているが、講座の内容がよく分からないので確認したいという方は、平成24年9月28日から10月12日まで講座の試聴をすることができます。  
FAX.055-224-5386 E-mail ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp  
にて、受講しようとする科目の開講の前日までに  
山梨県立大学授業開放講座試聴申込書を提出してください。

## 募集要項の請求

受講生募集要項の事前予約を受け付けます。  
実際の配布は平成24年8月末頃から行う予定です。  
下記連絡先に平成24年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付をお申し込みください。

## ◆受講申込書の送付先及び申込期限

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1  
山梨県立大学学務課 宛

※平成24年10月12日午後5時(必着)

TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386  
E mail ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

FAXまたはE mailの場合、件名として  
「平成24年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付希望」  
とお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

平成24年9月28日より順次授業開始



**飯田キャンパス**(国際政策学部・人間福祉学部)  
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL.055-224-5261 FAX.055-228-6819  
**池田キャンパス**(看護学部・大学院看護学研究科)  
〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1 TEL.055-253-7780 FAX.055-253-7781



知ることは、  
学ぶことへの  
第1歩です!



平成24年度県民コミュニティカレッジ(地域ベース)

# 人と人との つながりを 考える

参加  
無料

災害時の助け合いや地域の活性化などに共通するキーワードとして、「人と人とのつながり」は外すことのできない大切な要素です。地域に開かれた本大学の役割として、あらゆる角度から皆さんと考える機会を持つことで、世代を超えた地域のつながりの一助となれば幸いです。

第1回

防災・コミュニティーの  
拠点としての学校

平成24年 12月2日(日)

人間福祉学部人間形成学科 堀井 啓幸教授

第2回

保健・医療活動をとおして  
外国籍の子どもたちを知る

平成24年 12月8日(土)

看護学部看護学科 長坂 香織准教授

第3回

災害時における地域コミュニティーの  
役割 ～東日本大震災の経験から～

平成24年 12月15日(土)

国際政策学部総合政策学科  
森田 玉雪准教授

第4回

豊かな生活を育むために  
～人々の生き様から学ぶこと～

平成24年 12月22日(土)

看護学部看護学科 村松 照美教授

#### ◆開催時間／場所

- ・午後2時00分～午後4時00分(受付は午後1時30分から)
- ・山梨県立大学飯田キャンパス(甲府市飯田5-11-1)A館サテライト教室

#### ◆参加申し込み

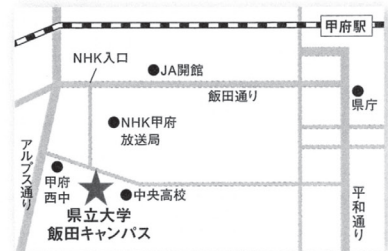
TEL : 055-224-5260 FAX : 055-224-5386

E-mail : [ucree-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucree-accept@yamanashi-ken.ac.jp)にてお申し込みください。  
なお、FAXまたはEメールの場合、件名として「平成24年度県民コミュニティカレッジ(地域ベース)」とお書きいただき、氏名、住所、電話番号、参加希望日を必ずご記入ください。

◆主催:山梨県立大学 地域研究交流センター



#### ◆MAP



山梨県立大学 第6回 子育て支援フォーラム

# おんがくの おへやへ ようこそ

歌い継ぎたい 童謡や唱歌

一緒に聴きたい オペラのアリア ピアノの名曲

音楽が大好きなのに、子ども連れではコンサートへなかなか行けないですね。  
今回の企画は、子育て中の皆様が、お子様と一緒に音楽を楽しむ会です。  
プロの演奏家としてご活躍中のお二人による演奏と参加型の音楽会。  
県立大からのクリスマス・プレゼントです！ ぜひ、ご参加ください！



## ソプラノ独唱 早乙女 弘枝

東京藝術大学音楽学部声楽科ソプラノ専攻卒業  
声楽を中村浩子、後藤寿子各氏に師事 多くの合唱団の常任指揮者を務め、さいたま市後援の平和祈念コンサートや毎年のソロリサイタルを主宰 童謡・唱歌の普及を目的とした「子守りうたの会」では、読み聞かせ・手遊び等を通して、現役の保育士とともに活動している 春日部市合唱連盟理事



## ピアノ 村木 洋子

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 准教授

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業 同大学大学院音楽学専攻修了 1989年 フランス音楽コンクール第3位  
作・編曲の作品も多く、パソコンゲーム音楽（『冒険浪漫』システムソフト）も手がけるマルチピアニスト



### 演奏予定曲目

小鳥のうた 冬景色 ベチカ  
ふじ山 クリスマスソング  
ねむの木の子守歌 わたしのおとうさま  
(オペラ『ジャンニスキッキ』より)  
いのちの歌 スタンドアローン  
トルコ行進曲 子犬のワルツ  
幻想即興曲 ラ・カンパネラ  
他

日時： 2012 12/15 土 14:00~15:30

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

対象：子育て中の方、子育て支援関係者、保育・教育関係者、学生、その他  
定員：親子50組を優先 お一人のご参加もOKです！ 参加費：無料

問い合わせ・お申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター Tel. 055-224-5260

メールでお申込みの場合：件名を子育て支援フォーラム申込とし、[ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)へ  
12/5 までに 代表者お名前、参加人数、お子様の年齢、ご住所、ご連絡先電話（携帯可）をお知らせください。  
ただし、定員になり次第、締め切らせていただきます。ご了承ください。

主催：山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 共催：山梨県立大学 地域研究交流センター

山梨県立大学  
第6回 保育リカレント講座

# 勇気づけで 育てる

～子ども・保護者・自分自身と  
勇気づけで関わろう～

勇気づけとはどんなこと？ ほめることとの違いとは？  
共感的にかかわるコミュニケーションのあり方が勇気づけです。  
勇気づけで、子どもや保護者とともに成長していくことを、  
ワークショップ形式の体験学習で学びたいと思います。

2013 1/26 (土) 13:30～16:00

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室  
対象：幼稚園教諭・保育士・子育て支援者・保護者・本学学生・その他 定員：40 名  
共催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科・地域研究交流センター



講師：富士池 昌代 (山梨県女性相談所相談員・前中学校教諭)

【略歴】 東京農工大学環境保護学科卒業。埼玉県公立中学校教諭として8年、その後山梨県公立中学校教諭として24年勤務。中学校では教科(理科)とともに、教育相談に長くかかわる。相談活動の中でアドラー心理学に出会う。アドラーカウンセラー養成講座修了。スマイルリーダー、ERM 勇気づけトレーナー・リーダー

問い合わせ・申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター TEL. 055-224-5260  
FAX の場合 …… 以下の申込み用紙に必要事項を記入して、FAX. 055-224-5386 まで  
メールの場合 …… 件名を保育リカレント講座申込とし、[ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp)、  
下記の項目をお知らせください。

申込み期限：2013年1月18日(金)まで(定員40名になり次第、お申し込みを終了いたします。ご了承ください。)

申込み用紙

お名前

ご所属

ご住所(自宅・勤務先)

電話・携帯・FAX

※ご連絡がしやすいものをお選びください

山梨県立大学地域研究交流センター 健康講座

# 「食べる」を考える

認知症にならないために・もしなったら



講師：山梨県歯科医師会

花形哲夫先生

日時：2013年2月2日(土) 14:00-16:00

場所：山梨県立大学池田キャンパス101講義室  
駐車場：あり(台数に限りがあります)

問合せ：055-253-7780

入場  
無料

お申込み

件名を「健康講座希望」とし、「氏名・電話番号・住所・参加人数」を記載のうえ、  
1月31日までにFAXまたはE-mailでお送りください。

FAX: 055-253-7781 E-mail: [ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp)

(事前にお申込みがなくてもご参加いただけますが、資料準備の関係上ご協力ください。)



 **山梨県立大学**

池田キャンパス(看護学部・大学院看護学研究所)

〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1 TEL.055-253-7780 FAX.055-253-7781





日時 2013.3.26(火)  
 時間 13:30～  
 場所 山梨県立大学 A606教室  
 および サテライト教室  
 料金 無料(出入り自由)

#### A606教室

- 13:40 安達 義通 (国際政策学部准教授)  
山梨県のコミュニティビジネスのあり方に関する研究Ⅱ
- 14:10 前澤 哲爾 (国際政策学部教授)  
「山梨県における農家民泊・体験学習への地域取組」  
についての研究
- 14:40 斉藤 秀子 (人間福祉学部教授)  
地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について  
ー甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発ー
- 15:10 澁谷 彰久 (国際政策学部教授)  
高齢者への見守りと地域連携の総合的研究

#### サテライト教室

- 13:40 泉 宗美恵 (看護学部講師)  
在宅ケアにおける専門職連携実践 (IPW) 推進に  
必要な実践力に関する研究  
ー訪問看護師と介護支援専門員のインタビュー調査ー
- 14:10 長坂 香織 (看護学部准教授)  
多文化共生推進プロジェクト  
保健・医療・福祉における大学・地域・行政の  
連携に向けて
- 14:40 清水 恵子 (看護学部教授)  
青少年を対象とした自殺予防教育の  
推進に関する研究4
- 15:10 安藤 淑子 (国際政策学部准教授)  
山梨県内在住外国人児童生徒の健全な育成に向けて  
ー進路・進学に関する情報提供を軸とした教育実施ー
- 15:40 高野 美千代 (国際政策学部准教授)  
山梨県内の小学校英語教育における指導者の養成と  
研修に関する研究

山梨県立大学  
 地域研究交流センター

2012年度

# 研究報告会

山梨県立大学地域研究交流センターでは、  
 大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、  
 本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援を行って参りました。  
 今年度もその成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として  
 「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。  
 どうぞお気軽にご参加ください。



お問い合わせ

〒400-0035 甲府市飯田5-11-1  
 山梨県立大学  
 TEL. 055-224-5260  
 主催：山梨県立大学地域研究交流センター



---

2012年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

---

発行者：地域研究交流センター長 前澤 哲爾

編集：地域研究交流センター 情報発信部門

部門長 箕浦 一哉 (総合政策学科)

平野 和彦 (国際コミュニケーション学科)

大塚 ゆかり (福祉コミュニティ学科)

池田 充裕 (人間形成学科)

大久保 ひろ美 (看護学部)

山田 光子 (看護学部)

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田5丁目1-11

TEL：055-224-5620 FAX：055-224-5386

E-mail：[ucrc@yamanashi-ken.ac.jp](mailto:ucrc@yamanashi-ken.ac.jp)

URL：<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/ucrc/>

発行日：2013年5月31日

---

